

三 ソ連邦との関係

1 日ソ諸案件交渉

(1) 一般問題

103

昭和12年11月26日

在ソ連邦重光大使より
広田外務大臣宛(電報)

ソ連の対外關係不振および閉鎖的傾向に関する
各国外交団の觀測について

モスクワ 11月26日後發

本省 11月27日前着

第一一八五號

⁽¹⁾最近外交團方面ノ觀測ヲ主トシテ蘇聯ノ情勢ヲ判斷スルニ
左ノ通り

一、赤露現下ノ對外關係不振ハ相當「スターリン」ヲ刺戟シ
居ルモノノ如ク即チ東ハ支那上海ノ敗軍、南京ノ遷都ニ
依リ西ハ西班牙政府軍ノ劣勢及其ノ内部崩壞ノ兆アリ
「ブラッセル」會議又ハ倫敦不干渉委員會悉ク其ノ意ニ
反シ他方日獨伊ノ防共包圍陣ノ完成ニ拘ラス英米接近策

ノ成功見込ナク加フルニ佛國ヨリ見放サレタル有様トナ
リ其ノ對應策ニ付種々苦悶ノ體ナルカ如キ處此ノ形勢ハ
「スターリン」カ「デイミトロフ」ヲシテ「コミンテル
ン」ヲ通シ蘇聯政策ノ擁護ノ爲凡ユル策動ヲ海外ニ行ヒ
居ルコトト共ニ益々「共產主義」ニ對スル世界的反動ヲ
招來セントスルカ如ク右ハ蘇聯近接諸小國ニモ反響アル
ヘキノミナラス列強ノ對蘇聯政策ニ著シク影響アルヘク
察セラル

「リトヴィノフ」ノ外交不成績ニ對スル「スターリン」
ノ不満足カ傳ヘラレ昨今「ゲ、ベ、ウ」ノ外交部手入モ
結局彼一派ノ追出ニアラスヤト觀ラレ居ル次第ナリ

⁽²⁾二、以上對外關係ノ不振ハ畢竟國內ノ暗黒、内政ノ不振ニ基
クモノニシテ十二月十二日ノ選舉ニ對シ連日大宣傳ヲ行
ヒ居ルモ要スルニ指名セラレタル候補者ニ對シ指定セラ
レタル通り選舉ヲ行ハシメン爲ノ手段ニシテ之ヲ以テ英
米目當ニ「デモクラシー」ト爲ス宣傳ハ却テ反感ヲ招キ

居ルカ如ク他方連日新ニ噂セラルル清掃運動ニ依ル逮捕
處刑ハ益々恐怖政治ニ怯エテ各方面ノ能率ヲ低下セシメ
外ハ著シク外國人ノ神經ヲ刺戟シ蘇聯ノ信用地ニ墜チツ
ツアルカ如シ

以上ノ狀況ハ愈蘇聯ヲシテ閉鎖的トナラシメ外國人ヲ驅
逐シ旅行ヲ制限シ經濟上ノ封鎖國ヨリ政治上ノ封鎖國タ
ルニ至ラントスル狀況ナリ

三⁽³⁾

以上ノ情勢ニ於テ「スターリン」ハ益々露國內ニ立籠リ
ノ方針ニ出テ外國トノ關係ヲ最少限度ニ止メン方策ヲ執
リ對外的殊ニ大國ト國境ヲ接セサル西歐ニ對シテハ消極
的方針ニ出テテ事端ヲ少クシ内部ノ建設ヲ急クコトナ
ルモノノ如シ「コミンテルン」ノ策動モ此ノ政策ノ擁護
ニ出ツヘク共產主義ニ對スル反動時代ニ入りテ其ノ今後
ノ活動ハ一層注意ヲ要スヘシ

「スターリン」ハ今後其ノ持論タル亞細亞赤化ニ全力ヲ
集中スヘシトノ觀測モ行ハルルカ「コミンテルン」トシ
テハ素ヨリ其ノ通りナランモ蘇聯國家トシテハ之亦西歐
ニ對スルト大同小異ノ態度ニ出テ東方ニ對シテモ軍備ノ
充實、國內ノ建設ニ全力ヲ盡シ支那トノ聯繫ヲ把握シツ

ツ大體事勿レ主義ノ範圍ヲ脱セサルモノト觀ラル
支那ニ對シテハ新疆ヲ通シテ赤軍(第八路軍)及共產黨ニ
對スル援助指導ハ益々行ハルヘク又外蒙ニ對スル聯繫(最
近外蒙派兵ノ噂アリ)ヲ密ニシ支那軍及「バルチザン」
ヲ以テ日本軍ノ脅威ト爲サントスルモノノ如シ
土、伯ヲ除ク在歐米各大使及滿ニ暗送セリ



104

昭和12年11月30日

広田外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

ソ連船ウインペル号抑留経緯について

本省 11月30日後7時20分發

第六二一號(極秘)

樺太廳ノ報告ニ依レハ本月二十二日午前十時頃安別附近ニ
蘇聯發動機船一隻漂着取調ヘノ結果右ハ本月二十一日午後
「ピレオ」ヨリ亞港ニ向ケ航行中ナリシ「ウイムペル」號
(乗組員十八名)ナルコト判明セリ乗組員ノ陳述ニ依レハ同
船ハ時化ノ爲遭難シ漂流中ナリシ趣ナルモ惠須取觀測所ニ
依レハ當時ノ天候ハ遭難スル程度ノモノト認メラレス又其
他ノ事情ヨリ見テ漂着ヲ裝ヒ故意ニ我領海内ニ入り來レル

疑アリ軍機保護法ニ牴觸スル恐アル趣ヲ以テ目下樺太廳ニ於テハ軍側ト連絡ヲトリ取調ヘ中ナリ依テ當方トシテハ當分蘇側ノ問合せニ對シテハ同船ガ本月二十二日安別附近ノ領海内ニテ發見セラレ目下取調ヘ中ナルコト尙乘組員十八名全部健在ニテ我方官憲ノ保護ヲ受ケ居ル旨丈簡單ニ亞港及浦潮ニ於テ回答セシメ置キタリ右御含迄

~~~~~

105

昭和12年12月21日  
在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛(電報)

ソ連側より一部被拘禁邦人の事実上釈放の示唆  
および抑留遭難者の解放方要請について

モスクワ 12月21日後発  
本省 12月22日後着

第一三二二號

往電第一三二〇號ニ關シ

要談ノ後「ス」ハ本日ハ外ニ御通報スルコトアリトテ北樺太兩利權會社ヨリ被逮捕勤務者ニ付在東京蘇大使館ニ對シ度々請願アリタル外貴大使館ヨリモ申入ニ接シ(本人等ヨリモ請願アリ)タルヲ以テ種々研究シタル結果聯邦檢事局

ハ北樺太ニ於ケル日本人ノ逮捕事件全部ノ書類ヲ取調ヘ監督手續ニ依リ是等ヲ露西亞共和國最高裁判所ニ移シタル處小林、相見、菅原、小杉ニ對シ自由刑ニ代フルニ五箇年ノ國外追放ニ處スル旨ノ判決アリタリ其ノ他ノ事件ハ尙決定ニ至ラサルモ自分ノ有スル印象ニ依レハ間諜其ノ他重罪犯ヲ除キ技術規則違反事項ノ如キハ恐ラク右ト同様ノ判決ヲ見ルニ至ルニアラスヤト思考セラルト述ヘタル後蘇側「ダリレス」關係者四名ノ乗組メル汽艇カ暴風雨ノ爲黑龍江滿側岸ニ吹流サレタル事件ニ付十一月十三日「カズ」ヨリ西ニ申入レタルコトヲ述ヘ(往電第一三三八號)滿側官憲ハ汽艇ハ返還シタルモ今ニ豫審モ裁判モナク抑留サレ而モ其ノ代償トシテ蘇側ノ抑留シタル白系露人ノ釋放ヲ求メ居ル處暴風雨遭難者ノ返還ニ付代償ヲ求ムルト云フカ如キハ文明國間ニアリ得ヘカラサルコトニテ我方各方面ニ於テ憤懣ヲ買ヒ居レリ更ニ暴風雨ノ爲川崎船ニテ安別ニ吹流サレタル十八名ノ蘇側水夫ニ付テモ「カズ」ヨリ西氏ニ申入レタル(往電第一二八五號)外「スラウツキイ」大使ヨリ再度東京ニ於テ申入レシメ又現場近クノ日本領事ニ對シテモ申入レタルカ三名ハ罹病セリトノ通報アルノミニテ水夫等カ何

等供述ヲ與ヘストテ今ニ釋放ヲ見ススル遭難者ハ直ニ釋放  
スルカ文明國ノ禮ナリ就テハ貴使ヨリ本國政府ニ釋放方幹  
旋セラレンコトヲ希望スル旨述ヘタリ

依テ本使ハ抑留邦人ノ問題ハ日本政府ノ重要視スル所ニシ  
テ國民モ痛ク憤慨シ居リタル問題ナレハ御通報ハ遲滞ナク  
本國政府ニ通報スヘシ蘇側人民抑留事件ノ内ハ蘇滿關係  
ニ屬シ他ハ日蘇間ノ問題ニ屬スルモノト思考セラルル處前  
者ハ哈爾賓等ニ於テ直接滿側ニ交渉セラルルコトヨリ效果  
的ト思考スト述ヘタルニ「ス」ハ哈爾賓ノ話ハ何等結果ナ  
キ爲御願ヒスル次第ニシテ貴使カ餘リ形式張りタル理由ヲ  
述ヘサランコトヲ願フ貴方ニ於テ餘リ形式張りタル理屈ヲ  
言ハルルコトハ貴方ヨリ申出ノ種々ノ解決ニ對スル我方ノ  
熱意ヲ減殺スルコトナルニ付御願ヒノ件ハ貴使ノ積極的  
御盡力ヲ得度シト述ヘタルニ依リ本使ハ本日ハ議論ヲ避ケ  
御話ノ次第ハ東京ニ傳達スヘシト答ヘ置ケリ

「オハ」、亞港、滿ヘ轉電セリ



106

昭和13年1月11日

広田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使、在アレクサンドロ  
フスク田中(文一)郎(総領事宛)電報

ウィンベル号乗組員の拘留ならびに被拘禁邦  
人との交換的釈放の提案に対する在本邦ソ連  
大使の抗議について

本省 1月11日後3時10分發

#### 合第九二號

在京「ソ」聯大使ハ本月二日附本大臣宛書面ヲ以テ「ウイ  
ムベル」號カ客年十一月二十二日海難ニ依リ南樺太海岸ニ  
漂着シタルニ日本官憲ハ之カ取調ベテ理由トシテ今日ニ到  
ルモ釋放セサルノミナラス我方係官カ「ソ」聯内ニ拘禁サ  
レ居ル邦人ノ釋放ヲ交換條件トシテ本件解決盡力方「サジ  
エスト」シタルハ國際法ノ原則ニ反ストテ抗議シ來レリ、  
依ツテ我方ハ七日附書面ヲ以テ乗組員カ我官憲ノ取調ベニ  
當リ口ヲ緘シテ供述セサル爲取調延引シ居ルコト又同船カ  
海難ニ遭遇セリト云フ當時ノ天候ハ漂着ヲ余儀ナクセシム  
ル程度ノモノニ非ストノコトニテ乗組員ノ供述拒否及數名  
ノ將兵乘込ミ居タル事實ト共ニ右ハ果シテ暴風ニ依リ漂着  
セルヤニ付疑惑ヲ生セシメ寧ロ漂着ヲ裝ヒテ我方警備狀況  
ヲ探查セントシタルヤノ嫌疑アルニ依リ嚴重取調中ナル旨  
及我方係官ノ「サジエスト」ハ此際御互ニ政治的考慮

ヲ以テ此種事件ヲ一掃シテハ如何ト善意ニ「デ」書記官ト  
相談シタルモノニシテ「ソ」聯大使ニ於テモ考慮アリタキ  
旨申送り置キタリ

~~~~~

107 昭和13年1月14日 広田外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

ソ連側が被拘禁邦人釈放につき誠意を示せば
ウィンペル号乗組員釈放に向けて尽力する旨
申入れ方訓令

本省 1月14日後8時5分発

第一九號

貴電第二〇號及亞港發本大臣發電^(宛々)報第五號ニ關シ

「ソ」側ハ我方官憲ノ「ウイムペル」號乗組員ニ對スル取
調ベヲ云々スルモ我方コソ「ソ」側官憲ノ邦人或ハ漁船ニ
對スル取調振リニ不滿ヲ感シ居ル次第ニテ現在蘇側ニ監禁
セラレ居ルモノ廿四名アリ中ニハ些細ナル或ハ全ク無根ト
認メラルル問題ニ關シ形式的ナル論議ニ依リ不當ニ重キ刑
ニ處セラレ又ハ長期ノ取調ベヲ受ケ居リ尙其外ニ今尙朝鮮
漁船十一隻(邦人若干名鮮人約五十名)抑留セラレ居ル次第

ニシテ「ソ」側ハ監禁セラレタル邦人ノ所在スラ通報セサ
ルモノアリ又此等邦人ヲ逆ニ「スパイ」トシテ利用セント
シタル事例モアリ最近ハ冒頭電報ノ通り一旦判決ニ依リ國
外追放ト決シタル邦人八名ノ出國スラ行政官廳ニ於テ妨止
シ居ル實情ナリ我方内地官憲ハ蘇側コソ或範圍ニ於テ拘留
邦人ヲ釋放シ以テ誠意ヲ示シ來ラサルニ於テハ「ウ」號乗
組員釋放問題ニ關シ何等好意的考慮ヲ加ヘ得ストノ強硬ナ
ル態度ヲ示シ居ル實狀ナリ就テハ既ニ出國判決アリタル谷
川、小杉(石油)、相見、菅原、小林、尾島、淺田(石炭)、
吉田(越境)ノ八名ハ勿論其外少ク共八名例ヘハ菅原涉、下
村(石油)、馬場、川瀬、眞島、外崎(石炭)及中、高橋(商
船組)ノ八名ノ出國(如何ナル名儀ニテモ可)實現盡力方要
求セラレ若シ「ソ」側ニ於テ其誠意ヲ示スニ於テハ我方ト
シテハ責任ヲ以テ「ウイムペル」號乗組員全部ノ釋放方盡
力スヘキ旨申入レラレ結果回電アリタシ

~~~~~

108 昭和13年1月18日 在ソ連邦西(春彦)臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

最高會議におけるジダーノフ第一書記演説中

## の日本関連部分について

### 第五四號

モスクワ 1月18日午後発

本省 1月19日前着

既報「ジユダノフ」演說中日本ニ關スル部分左ノ通り(新聞發表ニ依ル)

余ハ外務部カ日本及所謂傀儡の滿洲國ノ手先ノ厚顔ニシテ無賴漢の且挑發の行動ニ對シ決然タルヲ要スヘキモノト思考ス、諸君、極東ニ於ケル我方關係ノ成行ヲ見ルニ吾人ハ依然トシテ我東部國境ニ於テ日本及所謂滿洲國ノ手先ヨリ何等カ常例ノ挑發の手出シノナキ日稀ナルヲ目撃ス右ハ一般ニ認メラレタル國際法ノ原則及通則ノ全然不法且亂暴ナル違反及蹂躪ノ最近事例タル旅客及郵便輸送ノ我非軍用飛行機カ挑發のニ抑留セラレタル事例ニ依ルモ明カナリ吾人ノ知ル所ニ依レハ今日迄飛行機及其ノ搭載物返還ニ關シ實際の措置執ラレス余ハ我外交機關カ我東部國境ニ於ケル關係調整ニ付日本帝國主義ノ無賴漢の手先ヨリスル何等挑發の行爲ヲ一舉永遠ニ不可能ナラシムヘキ實際の措置ヲ執ルヘキコトヲ國內全勤勞民ノ輿論カ一致要望シ居ルモノト思考ス

109

昭和13年1月20日

在ソ連邦西臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### モロトフ首相によるジダーノフ演說に対する

#### 答弁要旨

モスクワ 1月20日午後発

本省 1月21日前着

### 第六一號

「モロトフ」答辯要旨左ノ通り

(イ)在蘇領事館數カ夫々ノ國ニ於ケル蘇聯領事館數ヨリモ餘計ナルノミナラス若干ノ外國領事館カ蘇聯内ニ於テ「スパイ」の有害ナル反蘇行爲ヲ爲シタルハ事實ニシテ將來スル事態ヲ許シ得ス尤モ既ニ日本ニ、波蘭ニ、獨逸五ノ諸領事館閉鎖セラレ伊太利、「イラン」、土耳其、阿富汗、「ラトビヤ」其ノ他ノ多數領事館閉鎖セラルヘシ「ジユダノフ」ノ意見ハ之ヲ充分考慮シ最近ニ必要ナル措置ヲ執ルヘシ

(ロ)對日關係竝ニ日本及實際ニ傀儡タル滿洲國ノ非禮ナル若干ノ手先ニ關シ言及センニ蘇政府ハ日滿側ノ許スヘカサル若干ノ行爲ニ對シ一再ナラス抗議セリ例ヘハ不時着

蘇聯飛行機ニ對スル如キ日滿側ノ非禮ナル措置ハ何人モ憤慨ナクシテ之ヲ看過シ得ス十二月十九日右事件發生以來一箇月ヲ經タルカ今日迄本件ニ關シ東京及滿洲國ニ於ケル一再ナラサル照會ニ拘ラス日本政府ヨリ何等通報ニ接セス蘇政府ハ一月十六日餘儀ナク日滿官憲ノ不法行為ニ對シ日本政府ニ抗議ヲ送り抑留者ノ釋放及機體其ノ他ノ返還ヲ要求シ蘇側カ報復手段ヲ執ルノ餘儀ナキニ至ルコトナキ様警告セリ吾人ハ外國ノ此ノ種及其ノ他ノ總ユル非禮ナル行動ニ對シ蘇聯ノ利益ヲ充分ニ保障センコトヲ期ス吾人ハ我方ヨリ必要トスル總ユル措置ヲ實行スヘキ旨言明シ得ヘシ

(ハ)對佛關係ニ關スル「ジユダノフ」ノ意見モ理由アリト認ム蘇佛親善關係ニ拘ラス佛國內ニハ佛官憲ノ默過及庇護ノ下ニ公然反蘇行為ヲ爲シツツアル露人及非露人ノ團體アリ

右ハ蘇佛親善條約ニ一致スト言フヲ得ヘキヤ外務部ハ勿論該問題ヲ處理セサルヘカラス  
土ヲ除ク在歐各大使、米ヘ暗送セリ



110

昭和13年1月27日

在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛(電報)

被拘禁邦人の出国およびウインペル号乗組員

釈放問題に関する日ソ間の応酬振りについて

モスクワ 1月27日前発

本省 1月27日後着

第八五號

貴電<sup>(1)</sup>第一九號ニ關シ(被拘禁邦人ノ出國竝ニ「ウインペル」號乗組員釋放ニ關スル件)

廿六日西「カズロフスキー」ヲ往訪(前回ノ會見ハ先方都合ニテ本件交渉ノ時間ナク其ノ後本日迄會見不能)先ツ國外追放ニ決シ又ハ刑期滿了セル八名ノ邦人カ今猶行政官憲ニ依リ抑留セラレ居ル理由ニ付説明ヲ求メタル處「カ」ハ曩ニ日本課長ヨリ宮川ニ説明ノ通り「ウイムペル」號ニ對スル日本官憲ノ態度ハ右日本人ノ急速釋放ニ關スル外務部ノ盡力ヲ困難ナラシムルト述ヘ尙蘇聯飛行機抑留問題等モ持出シタルニ依リ西ヨリ邦人釋放ニ付何等條件ヲ附セザリシ「ストモニヤコフ」ノ言明カ裏切ラレタルハ不都合ニシテ裁判所ノ決定カ行政機關ニ依リ妨害セラレ居ルハ蘇聯司

法ノ權威ノ爲ニモ惜シムトテ前記八名ノ他現在監禁中ノ邦人十六名竝ニ抑留中ノ朝鮮漁船及其ノ乗組員ノ表ヲ提出シ右監禁等ノ不當ナル所以ヲ御來示ニ從ヒ縷々説明シタル上「ウイムペル」抑留ニ對スル蘇側ノ報復の措置ト相俟チ日本内地官憲ハ非常ニ憤慨シ居リ蘇側ニテ誠意ヲ示ササレハ「ウイムペル」號ニ付テモ好意の考慮ヲ加フル能ハストノ態度ヲ持シ居レリ故ニ蘇側ニ於テ至急右八名ヲ釋放スル外他ノ邦人ノ全部又ハ大部分ヲ釋放アリ度ク左スレハ外務省ニ於テモ責任ヲ以テ「ウイムペル」釋放ニ盡力シ得ヘキ旨申入レ尙飛行機問題ハ滿側トノ案件ナルニ「スラウツキ」大使カ日本側ニ報復ヲ通告セルハ見當違ナリ又自分ハ同問題ニ言及スル權限ナキモ過般ノ最高會議ニ於ケル「ジュダノフ」ノ日滿側ニ對スル侮辱の言辭(往電第五四號)ハ右問題交渉ノ圓滿進行ニ障礙トナルヲ惧ルト述ヘタル處「カ」ハ右ノ如キ申出ハ益々「ウイムペル」ニ對スル日本側ノ措置ノ不當ナルコトヲ確信セシム日本側ハ右釋放ノ代償トシテ多數ノ「スパイ」其ノ他重罪犯人ノ釋放ヲ求メ右ヲ懸引ニ利用セントスルモノノ如キモ日本側カ最高裁判所ノ日本人釋放ニ關スル人道主義ヲ尊重セスシテ以上ノ如キ

態度ヲ示サルハ蘇側ヲ憤慨セシムルノミナリ「ストモニヤコフ」ハ「スパイ」其ノ他ノ重罪犯人ノ釋放ヲ約シタルコトナシ被逮捕乃至監禁中ノ日本人ニハ夫々理由アリ蘇側カ邦人ヲ「スパイ」トシテ利用セントセリ等馬鹿々々シキ話ニハ憤慨セサルヲ得ス飛行機不法抑留ニ付テハ何人ニ責任アリヤ明カナリ朝鮮帆船ノ抑留セラレ居ルハ自分ノ知ル所ニテハ英德丸一隻ニシテ一應嫌疑ニ依ル行方不明ノ船舶ハ總テ蘇側ニ在リト考フルハ誤ナリト答ヘタリ(「ジュダノフ」ノ件ニ付テハ何等答辯セス)依テ西ヨリ「ウイムペル」ノ取調延引ノ理由ヲ説明シ利權企業ノ主任者カ續々抑留セラレ事業ノ運行ヲ害シタルハ斯ク企業ノ主任者ヲ一時ニ多數逮捕スヘカラストノ司直機關ニ對スル蘇側訓令ニモ反ス其ノ他當館使用人カ最近ニモ屢逮捕セラレ逮捕ノ理由不可解ナルコト邦人ヲ「スパイ」ニ利用セントセル事例ハ我方ニ資料アルコト過去一年裁判事件ニ付交渉セル自分ノ經驗ニモ鑑ミ將又共產黨總會ノ肅正ニ於ケル錯誤是正ノ決議(往電第五五號)ヨリ類推スルモ邦人ニ對スル蘇側裁判ニ不當ノ措置アリシヲ當然考フヘキコト等ヲ指摘シ蘇側カ今次ノ我方申入ニ篤ト考慮ヲ拂ヒ日本人釋放ニ付至急盡力方重

ネテ要望セリ右ニ對シ「カ」ハ「ウイムベル」ノ釋放ハ當然ニシテ日本側ノ責任ナリ之ニ付懸引ヲ爲ス能ハス等ト述ヘ立テ居リタルカ別段諸否ノ意見ヲ明示スル所ナカリキ

~~~~~

111 昭和13年1月29日

ソ連の日本關係小包郵便物取扱停止に関する

情報部長談話

「ソ」聯邦政府ノ日「ソ」間小包郵便物交換停止

ニ關スル情報部長談

(一月二十九日)

「ソ」聯邦政府ハ舊臘十九日滿洲國領域内ニ不時着シタ「ソ」聯邦飛行機カ搭載物及操縦士ト共ニ今尙抑留セラレ居ルコトヲ理由トシテ一月二十七日以後日「ソ」兩方面ニ於ケル小包郵便物ノ直接交換及繼越ヲ全部一時停止スル旨通信人民委員部ヲシテ帝國遞信當局及關係諸國ノ郵政廳ニ對シ電報セシメタノテアル。

然ルニ問題ノ「ソ」聯邦飛行機ハ不法ニ滿洲國領域内ニ着陸シ而モ其ノ不法越境ハ約二百「キロメートル」ノ深キニ及

ンテ居ルハカリテナク該機ハ明カニ軍用機テアリ其ノ行動ニ多大ノ疑念カアツタト云フコトテアル殊ニ「ソ」聯邦飛行機ノ滿洲國領域内不時着事件ハ一再ニ止マラナイノテアツテ滿洲國カ今回ノ不時着機ニ對シテ嚴重取調ヲ行フコトハ其ノ主權ニ屬スル普通ノ措置テアルノニ拘ラス「ソ」聯邦政府ハ帝國政府ニ對シ再三返還方ヲ申出テ來タノテ外務當局トシテハ直接滿洲國當局ト交渉セムコトヲ慫慂スルト共ニ「ソ」聯邦要望ハ之ヲ其ノ都度好意的ニ滿洲國ヘ通報シタノテアル、然ルニ「ソ」政府ハ一月十六日公文ヲ以テ所謂郵便飛行機ノ抑留ニ付帝國政府ニ對シ抗議ヲ重ネ且今回ハ所謂報復處置トシテ日「ソ」小包郵便物ノ取扱ヲ一時停止スルノ筋違ヒナ行動ニ出テタノテアル。

帝國政府トシテハ斯カル「ソ」政府ノ不當ナル措置ニ對シ嚴重抗議スル筈テアルカ小包郵便物ノ停止ハ日「ソ」兩國民ノミナラス主トシテ第三國人ニ多大ノ迷惑ヲ蒙ラシメルモノテアツテ「ソ」政府ハ其ノ責任ヲ免レ得ルモノテハナイ。

編注 本文書は、昭和十三年十二月、外務省作成「外務省公

表集」第十七輯より抜粋。

~~~~~

昭和13年1月30日

在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛(電報)

## ウィンペル号問題等をめぐるソ連外務人民委

## 員代理との応酬について

モスクワ 1月30日後発

本省 1月30日夜着

## 第二〇六號

<sup>(1)</sup>二十九日午後一時「ストモニヤコフ」ヲ往訪貴我交渉諸案件ニ付テハ西「カズ」間ニ折角折衝中ノ處本使トシテモ出來ル丈ケ貴我ノ主張ヲ調節スル爲盡力シ度キ考ナルニ依リ貴方ニ於テモ御同様ナランコトヲ希望ス尙漁業問題ニ付テハ昨年末暫定協定取極ノ際成ルヘク速ニ本交渉ヲ開始スルコト然ルヘキ旨ヲ話合ヒタル次第ナルカ右ニ付東京ヨリ再三照會アルニ付交渉開始ニ對スル貴方ノ事情ヲ承知シ得レハ好都合ナリト述ヘタルニ「ス」ハ「カズ」西間交渉中ノ諸懸案圓滿解決方ニ付テハ自分トシテモ努力スル考ナルモ最近日本側ニ依リテ釀成セラレタル重大ナル困難ノ爲外務部及自分ノ努力ハ少カラス困難ニ遭遇シ居レリ尙漁業問題ニ付テハ目下案文ノ作成等交渉準備ハ平常ニ運ヒ居リテ貴

使ニ案文ヲ差上クルコトトナルヘシ實ハ舊臘暫定ニ署名シタルコトナレハ別ニ急ク必要ハナキモノト考ヘ居レリト述ヘ本使ノ質問ニ對シ日本側ノ釀成セル困難トハ最近數箇月間ニ起レル問題ニシテ取り分ケ重大ナルハ在滿日本官憲ノ蘇側郵便飛行機ノ抑留及海難船「ウイムペル」號ノ抑留ナリト答ヘ本使ヨリ一昨日ノ蘇新聞ニ蘇側飛行機カ滿側ヨリ抑留セラレタル報復手段トシテ蘇側郵政廳カ日蘇間ニ調印運行セラレ居リシ小包郵便約定ヲ一時停止スル旨ノ「タス」通報掲載セラレタルカ右ハ蘇政府自身ノ意嚮ト認メ然ルヘキヤト尋ネタルニ

<sup>(2)</sup>「ス」ハ右「タス」通報ハ蘇聯郵政廳ヨリ日本郵政廳ニ發セラレタル通牒ニ合致スト述ヘタルニ依リ本使ハ右ニテ滿洲國側ニ於テ蘇聯飛行機ヲ抑留シタルニ對シ蘇側ニ於テ之ト關係ナキ日蘇間小包郵便ヲ停止スルコト確認セラレタル次第ナルカ御承知ノ如ク最近ニテハ在蘇日本人ハ主トシテ大使館及領事館ニ屬スルヲ以テ所謂蘇側報復手段ナルモノハ實質上日本ノ政府機關ノ便宜ヲ奪フコトトナリタル次第ナリ飛行機ノ抑留問題ハ過去ニ於テモ蘇滿間ニ發生シタルコトアリ其ノ都度交渉行ハレタルカ滿側ハ數箇月ニ亘リ交

渉ヲ行ハサルヘカヲサリシコトアリ本件飛行機ノ取調ハ目下進捗中ナリトノ情報ヲ本使ハ有ス斯カル問題ノ相當手間取ルハ前例モアルコトナリ尤モ日本側トシテ今回ノ如キ問題カ急速圓滿ニ蘇滿間ニ解決ヲ見ルコトヲ希望スル次第ナルカ滿洲國對外國ノ交渉ハ滿洲國自身ニ於テ當ル譯ニテ今回ノ如キ問題ハ蘇滿間ニ交渉解決セラルヘキモノナリ現ニ蘇側ハ滿側ト交渉ヲ行ヒツツアリト聞ク然ルニ蘇滿間ノ案件ニ對シ見當違ヒノ日本ニ向ツテ所謂報復手段ヲ執ラレ而モ右ハ前述ノ如ク在蘇日本政府機關ノ或ル種便宜ヲ奪フ結果トナリ居ル處此ノ點ハ日本ニ對スル蘇側ノ新ラシキ挑發行爲ト認メサルヲ得ス次ニ「ウイムベル」號抑留ニ付テハ審理ヲ續行中ニシテ蘇側カ本邦漁船ヲ數箇月或ルモノハ半年以上モ抑留シタルニ比スレハ審理ノ期間長シト言フヲ得ス

<sup>(3)</sup> 本件ニ付テハ日本側トシテ充分考慮ヲ拂ヒ圓滑ニ審理ヲ進メント考ヘ居タル次第ナルカ何故カ貴方ニ於テ舊臘貴下ヨリ本使ニ對シ國外追放ノ判決アリト通告アリタル本邦人ノ釋放ヲ差止メ居ル爲日本政府ニ對シ頗ル惡印象ヲ與ヘタリ且裁判ノ判決トシテ公式ニ通告セラレタルコトモ實行セラ

レサルハ之亦新ニ問題ヲ起スコトナリタリ尙現在相當數ノ日本人抑留セラレ居リ右ニ付テハ從來ヨリ釋放ヲ要求シ居ル次第ナルカ其ノ他ノ問題ニ付テモ我方ヨリスレハ常ニ蘇側カ新ナル故障ヲ起スモノト思ハルル處右ニ付蘇側ノ反省ヲ得ハ今後交渉上極メテ好都合ト存スル次第ナリ尙漁業問題ニ付テハ時間モ充分アリ急ク必要ナシト言ハレタルカ昨年末交渉ノ端緒開カレタル次第ナレハ之ヲ續行シ圓滿ナル結末ヲ見ルコトヲ期待スル次第ナリ茲ニ特ニ注意ヲ喚起シ度キコトアリ即チ漁業問題ハ日蘇間重要問題ノ一ニシテ右ニ付年々交渉ヲ行フコトハ不必要ニ双方ノ輿論ヲ刺戟スルヲ以テ成ルヘク速ニ長期ニ亘ル條約ヲ締結シ事態ヲ安定セシムルコト國交上ニモ效果アリト考ヘ居ル次第ニシテ右ニ關スル貴方ノ意嚮ヲ承知シ度キモノナリ以上本日述ヘタル所ハ總ユル努力ヲ拂ヒ現在ノ日蘇關係ヲ多少ナリトモ改善セントスル希望ニ出ツルモノト述ヘタルニ

<sup>(4)</sup> 「ス」ハ之迄モ屢々口頭乃至書面ニテ日本政府ノ注意ヲ喚起セルコトアル通り蘇側トシテハ滿側ノ行爲ニ付テハ日本政府ニ於テ責任ヲ執ルヘキモノト考ヘ居ルモノニテ蘇側郵便飛行機飛行家カ一箇月半モ不法ニ在滿日本官憲ニ依リテ

抑留セラレ居ルコトハ日本側ノ責任ナリ貴使ハ蘇側報復ヲ以テ新タナル挑發行爲ナリトノ酷評ヲ下サレタルカ右ハ事實ニ即セサル不適切ナル評價ナリ挑發トハ何等理由ナクシテ行ハルルコトナルモ今回蘇側措置ハ自衛上ノ措置ナリ右措置力大使館ニ對シ不便ヲ與ヘタルコトハ遺憾ナルモ貴使ノ不服ハ蘇側ニ對シ自衛措置ヲ餘儀ナクセシメタル日本官憲ニ申出ツヘキモノナリ次ニ自分ヨリ日本人ノ減刑ニ付通報セルハ蘇側ノ誠意ヲ示シ空氣ヲ緩和シ懸案ノ解決ニ資セントノ考ニ基クモノニシテ自分ハ其ノ時貴使ニ對シ「ウイムペル」號ノ即時釋放方御盡力ヲ御願セリ然ルニ日本外務省ハ之ニ報ユルコトナク海難ニ遭遇セル不幸ナル遭難者ヲ釋放セサルノミナラス却テ之ヲ人質トシテ重罪犯人タル日本人ノ釋放ヲ交換のニ要求セル處右ハ蘇國民ノ不滿ヲ買ヒ二十一日「サハリン」、「カムチャツカ」方面ニ於テハ「ウイムペル」號力容易ニ釋放セラレサルニ他方日本人ノ釋放ノコトヲ聞キ中央官憲ニ對シ右日本人ノ釋放ヲ中止センコトヲ請願セリ從テ紛糾發生ノ責任ハ日本ノ責任ナリ斯カル紛糾ノ原因ハ「ウイムペル」號釋放ノ要求ニ對シ刑事上ノ重大犯人タル日本人ノ釋放ヲ交換條件トシタルニ依リ右ノ

如キ結果トナリタルコトハ甚タ遺憾ナルモ罪ハ日本ニ在リ漁業問題ニ付テハ本日申シタル以外附言スルコトナシ日本政府力漁業條約ノ締結ヲ急カルルハ貴我兩國關係ヲ改善セントスル希望ニ基クモノトノコトナルカ貴方ニ於テ眞二兩國關係ノ改善ヲ欲セラルルナラハ本日申上ケタルカ如キ事件ノ起ラス様努ムルコト肝要ナリト答ヘタリ

右ニ對シ本使ハ御意見ヲ伺ヒテ得タル總括的感想ヲ申セハ貴方ハ各種ノ問題ニ付日本側ノ責任ノミヲ強調セラレ兩國關係ノ平常化ニ付貴方ニ於テ努力ノ必要ナシト考ヘ居ルカ如クニ見受ケラル漁業交渉ニ付テモ之ヲ進捗セシメントノ熱心カ見ヘサルハ遺憾ナリ飛行機抑留ニ付右ハ日本官憲ノ行爲ナリト言ハルル處成ル程滿洲國官吏中ニハ日本人アルモ右ハ滿洲國官吏ナリ滿側ニ依ル蘇聯飛行機ノ抑留ト日蘇小包郵便トハ何等ノ關係ナキニ兩者ヲ結ヒ付ケ小包郵便ノ停止ヲ以テ自衛行爲ト爲スハ了解ニ苦シム所ナリ本使ノ承知スル所ニテハ飛行機ニ付テハ目下取調進行中トノコトナリ然ルニ其ノ取調ノ結果モ判然セサル内ニ之ト關係ナキ日本ニ對シ小包郵便ノ停止ヲ爲スハ日本ニ對スル新シキ挑發行爲ト言フノ外ナシ「ウイムペル」號本件ニ付テモ審理續

行中ニテ重大ナル嫌疑アル爲慎重ヲ期シツツアル趣ナリ然ルニ之ヲ即時釋放セストテ折角邦人追放ノ減刑ニテ空氣緩和シカカリタル所ヲ不法ニモ右減刑ノ決定ヲ實行セサルコトハ事甚々重大ニシテ新タナル問題ヲ提起スルモノナリ日本外務省ニ於テ貴我ノ逮捕者ヲ相互ニ釋放セシコトヲ提議シタルハ之ニ依リテ双方ノ關係ヲ改善セント考ヘタル結果ナリト思考スト述ヘタルニ

「ス」ハ更ニ縷々蘇側建前ヲ繰返シ飛行機抑留ノ責任カ日本官憲ナルコトハ明カナリトカ蘇領内ニ不時着セルハ日本軍用機ナレハ蘇側郵便機ノ抑留トハ同様ノ問題トハ考ヘラレストカ海難船ノ乗客ヲ人質トシ刑事上ノ重大犯人トノ交換ヲ條件トシテ之カ釋放ヲ云々スルカ如キハ前例ナキコトニテ國際法ニ反スルトカ右ニ關スル日本外務省ノ提案ハ拒否スルノ外ナク斯カル要求ハ蘇聯邦輿論ノ不滿ヲ齎ラシ兩國關係ヲ紛糾セシムルモノナルトカ又ハ蘇聯邦ニ於テハ如何ニ下級官吏ナリトモ遭難者ヲ人質トシ之カ釋放ニ對シ代償ヲ求ムルカ如キコトハ爲サストカ述ヘ立テタルニ依リ本使ハ貴方コソ邦人ノ釋放ノ條件トシテ「ウイムベル」號ノ釋放ヲ求メラルルニアラスヤ舊臘二十一日貴下ヨリ本使ニ對

シ數名ノ邦人ニ付減刑ヲ爲シ國外追放ト爲スヘキ旨最高裁判ノ決定トシテ御通報アリシ際ハ自分ハヨモヤ右カ「ウイムベル」號ノ釋放ヲ條件トスルモノトハ考ヘサリシ所ナルカ同船ノ釋放ナキ爲右裁判決定ヲ中止スト言ハルル所ヨリ見レハ「ウイムベル」號ノ釋放カ邦人釋放ノ代償トセラレタル譯ニシテ之コソ前例ナキコトニアラサルヤ右ハ日本政府ニ對シ甚タシキ惡印象ヲ與ヘタルモノト考フト述ヘタルニ「ス」ハ貴使ハ蘇政府カ船ノ釋放問題ト日本人ノ釋放問題トヲ關聯セシメタリト言ハルル處右ハ意外ナリ蘇側ハ決シテ船ノ釋放ヲ日本人釋放ノ代償トシテ要求シタルモノニアラス唯前述ノ如ク「サハリン」、「カムチャツカ」方面ノ者カ海難ニ遭遇セル蘇船舶カ依然釋放サレサルニ蘇側カ日本人ヲ減刑シタリトノ報道ヲ得テ憤慨シ中央官憲ニ對シ右邦人ノ釋放中止方請願セル次第ナリ

船ト日本人ノ釋放問題ヲ結び付ケタルハ日本外務省ナリト詭辯ヲ弄シタル後自分トシテ貴使ニ勸告シ度キコトアリトテ「貴使ニ於テ總ユル「インフルエンス」ヲ用ヒ「ウイムベル」號及其ノ乗組員ノ即時釋放アル様セラレ度シ然ラサレハ兩國ノ空氣惡化スヘシ郵便飛行機ニ付テモ同様御盡力

アリ度シ尙船ノ問題ハ其ノ中航海季節モ近付クヘキ處蘇聯領水内ニ入ル日本船舶ノ數日本領水ニ入ル蘇船數ヨリモ多カルヘク不幸ニシテ海難船長期抑留ノコトトナラハ更ニ兩國關係ヲ紛糾シ之ニ依リテ困ルハ日本側ナルヘク從テ速ニ事件ヲ解決スルコソ日本側ニ有利ナルヘシ尤モ之ハ自分一箇人ノ勸告ト考ヘラレ度シ」ト述ヘタリ之ニ對シ本使ハ御説明ハ拜聽シタルモ納得行カス貴方ノ言ハルル所ハ矢張り船ヲ釋放セサルニ付日本人ヲ釋放セスト言フニ歸着セスヤ而シテ我方ハ蘇聯邦ニ於テ逮捕セラレタル邦人ノ釋放ニ付テ從來ヨリ幾度トナク要求シ居ル所ニシテ今日新ニ提起スル問題ニハアラス本使ハ常ニ貴方ノ説明ヲ傾聽シ研究シ問題解決ノ爲最善ヲ盡シ度キ考ナルモ右ハ蘇側ニ於テモ同様ノ態度ニ出テラレンコトヲ期待シテノコトナリ

最後<sup>(8)</sup>ニ貴下個人ノ御忠告ナルカ右ハ全ク個人ノ御話トシテ承ルニ止ムヘシ若シ右忠告カ公ノ御話ナランニハ自分ハ即時之ヲ峻拒スヘカリシナラン貴方ハ飛行機ノ問題ニ付テハ之ト何等關係ナキコトヲ以テ報復ト言ヒ船ノ問題ニ付テハ將來ニ於ケル重大ナル報復ヲ仄メカシタルカ右ハ威嚇ト言フヘク斯ル勸告カ公ニ爲サレタリトセハ自分ハ之ヲ峻拒ス

ルノミナラス右カ何等兩國ノ交渉ニ益スル所ナキヲ附言シタルナラント述ヘタルニ「ス」ハ貴使ハ本日二ツノ誤タル結論ヲ爲サレタリ一ハ曩ニ申シタル通り蘇側カ船ノ釋放ト日本人ノ釋放トヲ結ビ付ケ居ル旨ノ結論ニシテ二ハ只今ノ御話ナリ自分トシテ何等報復手段ヲ仄メカシタルモノニアラス個人トシテ蘇船抑留力餘リ長ク續クニ於テハ兩國關係ヲ紛糾セシメ有害ナリトノ意見ヲ述ヘタル迄ニテ右ハ決シテ威嚇ニアラス友好的忠告ナリ之ヲ容ルルト否トハ貴使ノ御隨意ニシテ且只今ノ忠告ハ蘇政府公ノ聲明ニアラサルニ付右ニ御含アリ度シト釋明セリ會談ハ四時間ニ亘リタルカ之ニテ本日ハ切上ケタリ(本會談ニ關スル感想ハ追電ス)

~~~~~

113 昭和13年2月1日 在ソ連邦重光大使より
広田外務大臣宛(電報)

日ソ間諸懸案交渉梗塞狀態の背景にあるソ連の対日觀測について

モスクワ 2月1日前発
本省 2月1日後着

往電第一〇六號ニ關シ

最近各種交渉ノ硬塞^{種々}狀態ハ累次報告ノ通りニシテ新聞宣傳振モ往電第一一〇號及第一〇九號等ニテ御存知ノ通りナリ國內排日思想モ深刻ニシテ在留邦人ニ對スル壓迫モ激シク恐ラク蘇聯トシテ支那ニ於ケル戰況ニ見且「ヂユネーブ」ヲ中心トスル國際環境ヨリ日本ハ苦境ニ在リト判斷セル爲ト認メラル領事館閉鎖問題ニ似タル陸軍駐在員退去問題ノ提起モ此ノ際ニ行ハレ最高會議ニ於ケル「モロトフ」ノ演說以來其ノ傾向著シキ様ナリ我方トシテハ勿論終始一貫確乎不動ノ姿勢ヲ以テ之ニ對應スルコト最モ有利ナルヘキハ勿論ナルカ御參考迄ニ最近ノ情勢報告ス

~~~~~

114 昭和13年2月1日 在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛(電報)

ウインペル号乗組員釈放の方針につき回示方

請訓

モスクワ 2月1日前發  
本省 2月1日後着

第一一六號

往電第一〇六號ニ關シ

「ウインペル」號ニ關スル先方ノ話ハ結局我方カ「ウ」號乗組員ノ釋放ヲ承諾スルニ於テハ過般ノ日本人追放ノ約束ヲ實行スル意嚮ヲ暗示スルモノノ如キ處「ウ」號ニ對スル裁判所判決アリタル際其ノ人員(判決ニテ釋放トスル場合)ニ付テ我方ニ於テ行政處分ヲ以テ之ヲ抑留シ蘇側ニ要求ノ日本人(判決ニ依リ刑ノ言渡アリタル)釋放ト交換スルノ御趣旨(貴電第一九號)ト承知シテ差支ナキヤ爲念御回電ヲ請フ

~~~~~

115 昭和13年2月1日 広田外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

ウインペル号乗組員釈放に当たってはほぼ同数の被拘禁邦人の釈放と交換的に行う方針につき回訓

本省 2月1日後9時20分發

第六〇號(極秘)

貴電第一一六號ニ關シ

検事局ハ客月二十八日「ウインペル」號乗組員中船長ノミ

起訴ニ決シ他ノ十六名ハ樺太廳ニ抑留中ナリ(船長ニ對スル判決宣告迄ハ起訴日ヨリ少ク共一週間ヲ要スルモ判決ハ罰金程度ノ見込ナリ)船長ニ對スル判決後樺太廳ニ於テ乗組員十七名全部ヲ行政處分ニテ抑留シ當方ノ欲スル時期ニ於テ之ヲ釋放スルコトニ話合濟ミナルニ付右釋放ト過般追放ニ處セラレタル邦人八名ニ加フルニ更ニ八名位(此ノ方ハ貴使ノ御見込ニ依リ釋放可能ト認メラルル人數ニテ差支ナキ意向)ト交換スルコトトシタキ次第ナリ

116 昭和13年2月18日

在ソ連邦重光大使より
広田外務大臣宛(電報)

被拘禁邦人の釈放問題に関し交渉の対象となる
邦人の範圍等ソ連側との認識の懸隔について

モスクワ 2月18日前發

本省 2月18日後着

第二〇六號

往電第一〇六號ニ關シ

十七日會見ノ終ニ西ヨリ「カズロフスキー」ニ邦人釋放問題審議ノ成行如何ヲ質シタルニ「カズロフスキー」ハ右ハ

例ノ八名ノ件ナリヤト問ヘルニ依リ右ノ外拘禁中ノ邦人全部又ハ大部分ノ釋放問題ナリト答ヘタルニ「カズロフスキー」ハ「スパイ」其ノ他ノ犯罪ニ依リ拘禁中ノ者ハ審議ノ餘地ナシ例ノ八名ハ日本側カ「ウイムベル」號ノ釋放ト日本人釋放トヲ引懸ケタル爲尙抑留中ナルモ同號カ釋放サルレハ遲滯ナク釋放サルヘキヲ確信スト述ヘタリ依テ西ヨリ元來問題ヲ「ウイムベル」號ト引懸ケタルハ蘇側ナリ「ストモニヤコフ」ハ今後尙邦人ノ釋放行ハルヘキヲ言明シ他方我方ヨリ八名以外ノ釋放ヲ要求シ居リ彼我ノ間別段大ナル意見ノ懸隔モナキ次第ナリ依テ今後尙八名乃至十名位ノ釋放ヲ見ハ問題ハ圓滿ニ解決セント述ヘタルニ「カズロフスキー」ハ最近堀内次官ハ「スラウツキー」大使ニ對シ八名ノ釋放ノコトノミニ付述ヘラレタリ「ストモニヤコフ」ノ言ニ付テハ更メテ述フル要ナク釋放問題ニ付取引ヲ行フ意思ナシト答ヘ西ヨリ問題ヲ取引ニ利用シタルハ蘇側ナリ堀内次官ノ話ニ付テハ何等通報ナキモ恐ラク單ニ八名ノ運命ニ付質問セラレタルニ過キサルヘシト述ヘ更ニ蘇側ノ考慮ヲ促シ置ケリ

117

昭和13年2月19日

広田外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

被拘禁邦人釈放問題に関し対象人数の追加に

よる事態紛糾の可能性につき在本邦ソ連大使

指摘について

本省 2月19日後8時40分発

第二〇〇號

貴電第二〇六號ニ關シ

十九日「スラヴツキー」大使堀内次官ヲ來訪「ウキムペル」號問題ニ言及シ先般次官ト自分トノ間及井上局長ト「スメターニン」參事官トノ間ノ會談ニ於テハ國外追放ノ判決アリタル八名ニ就キテノミ話合アリタルニ西參事官ハ「カズ」ニ對シ更ニ他ノ八名ノ釋放ヲ云々セラレタル趣ニテ日本側カ斯卡ル態度ヲ執ル以上問題ハ徒ラニ紛糾シ解決不能ナリト云ヘルニ付次官ハ前記八名ノ釋放ヲ「ウ」號乗組員ノ釋放ト交換の二提議セル事無シ只右八名ノ釋放ハ「ウ」號問題解決ヲ容易ナラシムルニ役立つヘシト言ヒタルニ過キス(井上局長ノ申述ヘタル趣旨モ同一)「ソ」側トシテモ最高裁判所ノ決定ヲ直チニ實行スヘキカ當然ナラスヤ「ウ」

號ハ軍機保護法違反ノ嫌疑ニ依リ取調中ニテ審理ノ結果疑ヒ晴ルレハ釋放サルヘシ西參事官ノ貴方ヘ申入レノ趣旨ハ當方ノ強ク支持スル處ニテ莫斯科ニ於ケル交渉ノ結果ヲ待ツ外無シト應酬シ置キタル趣ナリ

~~~~~

118

昭和13年2月19日

広田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

被拘禁邦人釈放問題に関し全面的な受入れに

固執せずとの交渉方針につき訓令

本省 2月19日後8時40分発

第一〇一號

往電第八七號竝第一〇〇號ニ關シ

蘇側ハ被拘禁邦人ノ釋放ニ關シ全然誠意ヲ示サス却テ我官憲ノ「ウインペル」號抑留ハ問題ノ解決ヲ遷延セムルニ過キストナシ居ルニ鑑ミ最近ノ機會ニ先方ニ對シ我方ハ「ウ」號乗組員ノ取調完了シ釋放差支ナシトノ結論ニ達セハ直ニ釋放スヘキコト勿論ニシテ蘇側コソ虚心坦懷互讓ノ精神ヲ以テ斯種問題ノ解決ヲ計ル態度ヲ示サハ「ウ」號乗組員ノ釋放ノ如キモ圓滿ニ解決スヘキコト而シテ我方ハ國外追放

ニ處セラレタル八名ノ外ニ更ニ適當數ノ釋放ヲ期待スルモノナルモ必スシモ殘リノ全部又ハ大部分ヲ固執スルモノニ非サルコトヲ明カニセラレ此ノ上トモ被拘禁邦人問題解決ニ御盡力相成度尙其ノ際前記谷川以下八名ノ所在地ニ付通報ヲ求メ置カレ度

119

昭和13年2月21日  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

ソ連船クズネツクストロイ号抑留に關し在本邦  
ソ連大使館より抗議および釈放方要求について

本省 2月21日後8時50分發

第一〇五號

二十一日在京「ソ」大使館「スメターニン」參事官井上歐亞局長ヲ來訪十八日「ソ」聯汽船「クズネツクストロイ」號(船員ノ外ニ船客三十九名)函館ニ於テ抑留サレタル件ニ關シ船長來電ニ依レハ「ペトロ」ヨリ浦潮ヘノ途中石炭不足セルト暴風ノ爲函館官憲ニ入港許可方電報シ返電ヲ待ツ爲函館港外、葛登志岬附近ニ假泊セルカ同地點ニハ他二國籍不明ノ外國汽船二隻假泊シ居リタルニ「ソ」聯汽船ノミ

抑留セルハ不當ナリトテ抗議ヲ申出ツルト共ニ至急釋放方要望セルニ付局長ヨリ同船ハ出入禁止地帯ニ假泊セル爲取調ヲ受ケ居ル次第ニテ當該官憲ノ取調スル迄出航ヲトムルハ通常ノコトナル旨說示シ置キタル趣ナリ

120

昭和13年3月3日  
在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛(電報)

被拘禁邦人釈放に先立ちウィンペル号問題の  
解決が必要であるとする外務人民委員代理の  
見解について

モスクワ 3月3日後發

本省 3月4日後發

第二六二號

二日<sup>(1)</sup>「ストモニヤコフ」ヲ往訪往電第二五八號申入ノ後貴電第四三七號ニ關シ漁船ノ表ヲ示シ「カズロフスキー」ヨリ西參事官ヘノ話ニ依レハ蘇側ニ抑留セラレ居ルハ大英丸一隻ノミナリトノコトナリシカ我方調ニ依レハ九隻其ノ乗組員三十四名ノ多數ニ上リ居レリ右ハ何レモ荒天又ハ濃霧ノ爲蘇領水内ニ漂流坐礁シタルモノト認メラルルニ付右所

在取調ノ上抑留セラレ居ル場合ニハ速ニ釋放アリ度シト要求シタルニ「ス」ハ本件ニ付テハ何等承知セス何レ調フヘキカ日本側ニ於テ蘇船「ウインペル」號ヲ不法抑留シ之ヲ返還セサル以上蘇側當該官憲ニ於テ假令右日本漁船蘇領水内ニ在ルコト判明スルモ之カ釋放ヲ肯セサルヘシト述ヘタリ依テ本使ハ右ハ甚タ了解ニ苦シム所ナリ客年末貴下ノ通告セラレタルモノヲ加ヘ抑留邦人中既ニ裁判所ニ於テ釋放ノ判決アリ又刑ノ執行ヲ終リタルモアリ都合八名ナリシカ貴方行政官廳ハ右釋放ヲ停止セリ抑留邦人ハ目下我方ノ調ニ依リ前述漁船關係ノ三十四名ノ外二十四名アリ右ニ付我方ハ問題ヲ簡單ニ解決スル爲大体相互釋放ノ趣旨ニ依リ交渉シタルニ貴方ハ之ヲ拒絕セラレ同時ニ蘇側ハ斯カル問題ヲ相互ノニ取扱フコトニ反對ス日本人釋放ノ通告ハ「ウインペル」號釋放ノ條件トシテ爲サレタルモノニアラスト言ハレタルニ付實ハ前記裁判決定アリタル八名丈ケニテモ御話ノ如ク釋放ヲ實現セラルレハ日本側ニ於テモ勿論之ニ酬ルモノアルヘキヲ期シ斯クテ問題ノ處理ニ一步ヲ進メ得ルト思ヒ居タルカ今日ノ御話ニテハ日本側ニ於テ先ツ蘇船ヲ釋放セサレハ曩ノ抑留邦人ハ勿論漁船關係モ釋放セスト

ノ趣旨ト了解スヘキヤト述ヘタルニ

「<sup>(2)</sup>ス」ハ八名ノ釋放ニ付テハ貴我ノ見解明瞭ニシテ茲ニ議論ヲ繰返ヘス必要ヲ認メス蘇側トシテハ自己ノ發意ニテ日本人ヲ釋放スルコトトシ之ヲ貴方ニ通告シタル處右ハ貴方ニ於テ蘇船抑留後ナリシニ拘ラス蘇側ノ態度ヲ多トスルコトナク却テ蘇船ヲ利用シテ蘇側ヨリ通報以上ノ釋放ヲ要求セリ斯ル日本側ノ態度ハ蘇側ヲ刺戟シ釋放停止トナリタル次第ニシテ只今ノ事態ハ日本側ヨリ動ク番ナリ日本カ蘇船ヲ釋放スレハ蘇側モ日本側ニ通知シタル抑留者ヲ釋放スヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ問題ノ紛糾ハ前回ノ會談ニテモ明瞭ナル通り蘇側ニ於テ釋放方ヲ通知シ乍ラ之ヲ實行セサリシニ依ルモノナルコト明カニシテ今日ノ會談ニテ貴下ハ初メテ日本人ノ釋放ハ「ウインペル」號ノ釋放ノ實現ヲ待テ初メテ行フコトヲ明瞭ニセラレタリ右新事實ハ政府ニ報告シ置クヘシト答ヘ置ケリ

~~~~~

121

昭和13年3月3日

在ソ連邦重光大使より
広田外務大臣宛(電報)

被拘禁邦人釈放交渉においては日本側条件を堅

持の上ソ連側の態度変化を待つべき旨意見具申

モスクワ 3月3日後発

本省 3月4日後着

第二六四號

往電第二六二號ニ關シ

本件ニ付何トカ先方ヲ然ルヘク交渉ニ誘導センモノト冒頭
電ノ通り話ヲ進メタル次第ナルカ先方ハ「ウ」號ノ釋放ヲ
以テ總テノ前提ナリト明言シ居ルノミナラス此ノ上ノ議論
ハ無用ナリトノ態度ヲ持シ居レリ從テ我方モ豫テノ方針
(貴電第六〇號)ヲ堅持シテ先方ノ態度ノ變化スル時期ヲ俟
ツコト可ナルヘシト思考ス

尙蘇側ノ遣口ハ自己ノ主張ヲ貫徹スル爲ニハ好都合ト信ス
ル向ニ交渉シ時ニ依リ東京莫斯科ト交渉相手ヲ操縦シ目的
ヲ達セントスル場合アリ本件ニ付テモ蘇側ニ對スル貴電第
一〇〇號ノ應酬ニ關シテハ先方ハ八名ノ日本人ヲ釋放セハ
日本側ハ「ウ」號ヲ釋放スルモノト考ヘ居ルヲ以テ貴方ニ
對シ蘇大使ヨリ申入アルヤモ知レス右爲念

~~~~~

122

昭和13年4月7日

堀内外務次官より  
岩村(通世)司法次官宛

日ソ間諸懸案の一括解決に向けたソ連側提案  
を踏まえウインペル号船長の釈放につき善処  
方要請について

付記 昭和十三年四月五日、欧亜局第一課作成

「對「ソ」回答方針案(諸懸案一括解決方ニ關  
スル件)」

歐一機密第六四號

昭和拾參年四月七日

外務次官 堀内 謙介

司法次官 岩村 通世殿

「ウイムペル」號船長ニ關スル件

去ル三月二十八日廣田外務大臣駐日「ソヴィエト」聯邦大  
使「スラヴツキー」ヲ招致シ豫テヨリ交渉案件トナリ居ル  
領事館數減少問題ニ付帝國對案ヲ示スト共ニ此ノ際他ノ諸  
懸案ヲ一括解決シ彼我一般關係ヲ正常ニ導カンコトヲ慫慂  
シ之ヲ「ソヴィエト」聯邦政府ヘ傳達方求メラレタル次第  
アル處四月四日「ソヴィエト」聯邦大使廣田外務大臣ヲ來

訪シ同政府ニ於テハ日「ソ」關係ヲ改善スル爲現在兩國間ニ懸案トナリ居ル數多ノ問題ヲ調整スルコトニ決シ帝國政府ヘ申入方訓令シ來レル旨前置シ帝國側ニ於テ「ウイムペル」號及「クズネツクストロイ」號ヲ各船長及乗組員全部ト共ニ釋放スルコト其他ノ數個ノ處置ヲ實行アリタク之ニ對シ「ソ」聯側ニ於テハ「ソ」領内ニ抑留中ノ帝國臣民中八名ヲ釋放スヘキコト其ノ他數個ノ處置（北樺太利權、領事館ニ關スルモノヲ含ム）ヲ實行スヘキ旨申入ルルトコロ有之候

然ルニ動モスレハ緊迫セル事態ニ立至ル處アル日「ソ」關係ヲ爲シ得ル限り正常ナル事態ニ誘導スルコトハ當今帝國對外關係ノ全局ニ鑑ミ肝要ト認メラレ諸懸案一括解決方ニ關スル「ソヴィエト」聯邦政府今回ノ提議ニ對シテハ好意の考量ヲ加ヘ居ル處前顯「ウイムペル」號ニ關スル案件ニ付テハ同船々長一年ノ懲役ニ服役中ナル爲普通ノ場合ニ於テハ「ウ」號ヲ其ノ船長以下乗組員ト共ニ最近ノ時機ニ釋放スルノ件ハ實現不能ノ狀態ニアルコト勿論ノ次第ニ候然ル處此ノ際「ウ」號及「クズネツクストロイ」號ヲ各船長以下乗組員全部ト共ニ最近ノ時機ニ釋放シ得ル狀態ニ置ク

コト對「ソ」外交折衝上其ノ成否ニ重大ナル關係ヲ有スル所ト認メラレ候ニ付テハ「ウ」號船長ヲ最近ノ時機ニ出國セシメ得ル狀態ニ置ク爲何等處置相成ル餘地アルニ於テハ右様御取計ヒ相成様致度此段申進候

## （付記）

對「ソ」回答方針案

昭、一三、四、五

（諸懸案一括解決方ニ關スル件）

四月四日ノ廣田大臣「スラウツキー」會談ニ於テ「ソ」側

カ我方ニ實行ヲ求メタル五事項（別添會談錄御參照）中

（一）不時着機返還

（四）「ダリレス」汽艇乗組員四名釋放

ハ全ク滿洲關係ニテ

（五）北鐵代償最終割賦金支拂

ハ我方保障ノ關係ハアルモ第一次のニハ滿洲關係ナリ

（二）「ウイムペル」號釋放（南樺太）

（三）「クズネツク、ストロイ」號釋放（函館）

ハ直接我方關係ナルカ「ク」號ニ付テハ第一審判決ニ於テ船長ハ千五百圓ノ罰金ヲ課セラレタルカ檢事控訴ノ結果去

ル二日第二審公判開廷檢事ヨリ船長ニ對シ一年ノ懲役求刑アリ四月六日第二回公判開廷判決アル筈ナルカ「ソ」大使館依囑弁護士ハ多分罰金トナルヘシト觀測シ居レリ從テ若シ第二審判決カ罰金トナリ(上告期間五日間)判決確定セハ「ク」號船長以下ノ乗組員ハ釋放セラルル譯ナリ

「ウイムペル」號ニ付テハ船長ハ去ル二月二十八日一年ノ懲役トナリ服役中ナルカ「ウ」號及船長ヲ除ク十六名ノ乗組員ハ釋放シ得ル狀況ニアリ(尤モ「ソ」側ニ對シテハ今尙取調中ト説明シアリ)從テ船長ノ釋放カ問題ナルカ特別考慮方司法省當局ト話合中ナリ

次ニ「ソ」側ニ於テ實行セントスル六事項(別添會談錄御參照)中

(一)ノ國外追放ニ處セラレタル邦人八名ノ釋放

ハ固ヨリナルカ此ノ外ニ作業上ノ事故ニ付責任ヲ問ハレ起訴禁足中ノ邦人十名(何レモ北樺太石油會社従業員ニシテ殊ニ最近起訴セラレタル小川所長以下六名ヲ含ム)ノ免訴方ヲ要望スルコト可然シト存セラル(北樺太石油會社ニ於テハ寧ロ小川所長以下六名ノ現地従業員幹部ノ免訴ヲ事業經營上重視シ居ル模様ナリ)

(四)ノ石油石炭利權ニ關スル諸問題

ニ付テノ好意的審議ハ右諸問題ヲ具體的ニ指摘セラルコト可然シト存セラル

尙「ソ」側力實行ヲ求メ來レル事項(四)ノ「ダリレス」所屬汽艇ハ既ニ客年十月二十五日滿側ニ於テ「ソ」側ヘ引渡ヲ了セル旨ノ報道ニ接シ居ルニ付問題ハ乗組員四名ノ釋放ノミト承知ス此ノ點小サキコト乍ラ「ソ」側ヘ注意シ置カルコト可然シト存セラル

依テ大体左記趣旨ニヨリ「ソ」側ヘ御開示アルコト然ル可シト認メラル

一、「ソ」政府力實行ヲ求メタル事項ノ中

(一)滿領内不時着「ソ」聯飛行機ノ釋放

(二)黑河附近ノ滿領内ニ於テ抑留セラレタル「ソ」聯汽艇

乗組員四名ノ釋放

ノ二件ハ滿洲國ト「ソ」聯トノ間ニ話合ヒ解決スヘキ筋合ノ事柄ナルカ折角御申出ノコトニモアリ滿洲國ヘ之ヲ取次キ出來得ル限り速ニ滿「ソ」間ニ問題ノ圓滿解決ヲ見ル様盡力致スヘシ

「ダリレス」所屬汽艇ハ滿側ニ於テ客年十月二十五日「ソ」

側へ引渡濟ナリ而シテ滿側カ乗組員四名ヲ引續キ抑留シ居ルハ「ソ」側カ滿洲國航政局作業船興凱號船長ヲ抑留シ之カ返還要求ニ應セサル爲メト承知ス

### (三) 北鐵代償金支拂ノ件

ハ我方ニ於テ保障ノ立場ニアルコトハ事實ナルモ曩ニモ御話セル通り滿洲國ニ於テハ「ソ」政府ニ於テ協定上當然支拂フヘキ債務ヲ支拂ハサルコトニ多大ノ不滿ヲ持チ之カ爲メ北鐵代償最終割賦金ノ支拂ヲ差控ヘタル譯ニテ何トカ圓滿ニ滿「ソ」間ニ話合ノ落着ヲ希望スル次第ナリ貴方ノ御希望ハ之ヲ滿側ヘ傳達スヘキカーツコノ際哈爾賓ニ於テ滿側ト話合ヲ行ヒテハ如何特ニ滿側カ「ソ」側ヘ履行ヲ求メタル各種ノ支拂債務ニ付充分話合フコトヲ希望ス(之ニ付テハ出來ル限り斡旋ノ勞ヲ執ルヘシ) 三、「ウイムペル」及「クズネツク、ストロイ」號ニ付テハ船及乗組員ノ釋放ニ付盡力スヘシ只「ソ」側ニ於テモ(曩ニ國外追放ニ處セラレタル八名ノ外ニ)作業上ノ事故ニ付責任ヲ問ハレ起訴禁足トナリ居レル邦人十名(何レモ北樺太石油會社員ニシテ小川所長以下從業員幹部含まレ居レリ)ノ免訴方盡力アリタシ

三、「ソ」政府ハ北樺太石油石炭利權ニ關スル諸問題ニ付好意的審議ヲナスヘシトノコトナルカ右ノ諸問題中主要ナルモノ概ネ左ノ通ナル處之等諸案件ニ對スル「ソ」側ノ腹案ヲ承知致シタシ即チ

### 石油利權關係テハ

一、會社從業員ニ對スル起訴、處罰問題

二、「カタングリ」海底送油管敷設問題

三、邦人労働者ノ入「ソ」問題

四、物資輸入制限問題

五、會社船舶ノ支所寄港問題

### 石炭利權關係テハ

一、邦人労働者ノ入「ソ」問題

二、物資輸入制限及配給品値下問題

三、會社從業員ニ對スル起訴、處罰問題

四、船舶ノ亞港寄港及港灣稅支拂問題

### ナリ

四、領事館ニ付テハ我方ハ「ブラグエ」及「ペトロ」ヲ閉鎖シ漁季中「ペトロ」及堪察加東西兩岸ヘ領事官憲ヲ出張セシムルコトトシ度ク本問題ハ此ノ邊ニテ落着セシムル

コト日「ソ」オ互ノ爲然ルヘシト存ス

就テハ本國政府ヘ本大臣ノ強キ希望トシテ御傳ヘアリ度シ

五、前回モ一寸申述ヘタル通り日「ソ」間ノ空氣ヲ良クスル爲ニハ漁業條約ニ調印スルコトモ必要ナリ此ノ際曩ニ案文確定シタル「ライン」ニ依リ速ニ新協定ノ調印ニ進ムコトトシ度シ

~~~~~

123

昭和13年4月7日 広田外務大臣より
在滿州國植田(謙吉)大使宛(電報)

不時着機の引渡しおよび北鉄協定関係協議の開始をソ連側へ申入れるよう滿州國へ要請方訓令

本省 4月7日發

第三八八號(極秘)

往電第三八七號ニ關シ

澤田參事官ヘ井上歐亞局長ヨリ

今回「ソ」側ヨリ領事館問題其他ノ懸案ヲ一括解決方提議シ諸問題ニ付相當從來ノ態度ヲ緩和シ來レルニ付テハ帝國諸般ノ情勢上此際ハ「ソ」聯ノ提議ヲ切掛ケニ諸懸案ノ解

決ヲ計リ以テ兩國關係ヲ成ルヘク正常ニ導クコト國家ノ利益ニ合致スルモノト思考セラルル處我方ヨリ與フヘキ「ウインペル」號及「クヅネツクストロイ」號ヲ乗組員ト共ニ釋放方ノ件ハ「ソ」領内拘留中ノ邦人釋放ニ資シタキ所存ニテ成ルヘク速ニ解決方手配中ノ實狀ニシテ若シ滿洲國側ニ於テ不時着「ソ」聯機竝ニ「ダリレス」汽艇乗組員四名ノ釋放可能トナリ且又北鐵代金問題ニ付滿「ソ」間ニ話合行ハルルニ於テハ當方トシテ對「ソ」折衝上誠ニ好都合ト存スル次第ナリ勿論之等ノ問題ニ付テハ滿洲國ノ問題トシテ突撥ネ來レル次第ナルカ段々承知スル所ニ依レハ不時着機ノ方モ大體取調済ミタル模様ニテ「ダリレス」四名ニ付テハ「ソ」側カ抑留セル興凱號船長ノ引渡しヲ條件トシ居ルモ實際上船長ノ返還ハ見込ナキニアラスヤトノ聞込ミモアリ旁々日「ソ」關係全般的調整ノ大局の見地ヨリ滿側ニ於テ最近ノ時期ニ前記四名竝ニ不時着機(搭乗者及搭載物共)ヲ「ソ」側ヘ引渡し又北鐵代金問題ニ付テモ最近ニ「ソ」側ニ對シ北鐵協定關係諸問題一括解決ノ爲協議開始方申出スルコトハ出來間敷キヤ可然滿側ニ御連絡ノ上至急何分ノ電報煩ハシタシ

尙當方トシテハ滿洲國ノ獨立國タル建前ハ何處迄モ堅持シ
折衝スヘキハ勿論ナルモ當方トシテ斡旋シ得ヘキ限度ニ於
テ何トカ斂上ノ諸案件ヲ纏メタキ希望ナリ此點、滿側ニ誤
解ナキ様御依頼ス

~~~~~

124

昭和13年4月14日

広田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使、在アレクサンドロ  
フスク田中総領事宛(電報)

**クスネツクストロイ号の釈放を踏まえ被拘禁  
邦人の釈放方ソ連側へ要求について**

本省 4月14日後0時発

合第一一六三號

十一日井上局長「スメターニン」參事官ヲ招致セル際「ク」  
號問題ニ言及シ同船カ八日釋放セラルルニ至レルハ我方ニ  
於テ「ソ」側屢次申出ノ希望ヲ考慮シ盡力セル結果ナルニ  
付テハ貴國側ニ於テモ約束ノ邦人八名ヲ至急釋放アリタシ  
ト述ヘタル處「ス」ハ「ソ」側ハ「ク」號ノ外「ウ」號ノ  
釋放ヲモ希望シ居ルノミナラス「ク」號ノ釋放ハ船長カ判  
決ニ基キ罰金ヲ支拂ヒタルカ爲メニシテ外務省ノ力添ニ依  
ルモノトハ認メ難シト言ヘルニ付局長ハ行政官廳タル外務

省カ司法官憲ノ仕事ニ干渉シ得サルハ勿論ナルモ裁判外ニ  
於テハ種々取計フ余地アリ實ハ「ク」號カ司法官憲ノ手ヲ  
離ルル場合行政處分ニ依リ更ニ抑留シ置クヘシトノ議アリ  
タルモ「ソ」側折角ノ申出モアリ諸問題ノ解決ニ當リ居ル  
際ナレハ一步ニテモ解決ニ近付ク爲メ右釋放ニ導キタル次  
第ナリ就テハ「ソ」側ニ於テモ邦人八名ヲ速カニ釋放アリ  
タシト繰返シ述ヘタルニ「ス」ハ御申出ノ趣旨ハ大使へ報  
告スヘシト答ヘタル趣ナリ

~~~~~

125

昭和13年4月14日

広田外務大臣より
在滿洲國植田大使宛(電報)

対ソ諸懸案解決のため滿洲国に再度協力從憑

方訓令

本省 4月14日発

第四二二號(極秘)

貴電第二四一號ニ關シ

澤田參事官へ井上局長ヨリ

御來示ノ滿洲國側ノ意向ハ筋道トシテ尤モノ次第二テ當方
トシテハ御來示ノ如ク滿蘇双方ノ言分ノ微細ナル點ニ迄立

入り驅引ヲ試ミムトスルカ如キ意圖ヲ有セズ只出來得ル限り此機會ニ兩國關係ノ平常化ヲ部分的ニモ實現シ以テ其緊張ノ緩和ニ資セムトスル外ニ他意ナク右ハ日滿關係ニ鑑ミ滿洲國側ニ於テモ同感ナルヘキト共ニ同國側ニ於テモ對「ソ」諸懸案ノ解決ヲ計ルコトニハ何等異存ナキコトト信セラレ旁々去ル四日ノ「ソ」聯提議ヲ切掛ニ對「ソ」折衝ヲ有利ニ動カシ度キ次第ナルカ實ハ滿側事項ノ三件ヲ除ケハ我方ノ切札ハ比較的貧弱ニテ此ノ際何トカ滿側ノ協力ヲ得度キ考ナリ就テハ「ソ」側ノ態度ニモ依ルコトナカラ話合ノ模様ニ依リテハ「ソ」側ニ對シ前記三件ハ豫々説明ノ通り滿「ソ」間ニ話合ハルヘキ問題ニテ最近照會セルトロコニ依レハ滿側ニモ種々「ソ」側ニ要求スル事項アリ素ヨリ之カ解決ヲ忌避スルモノニ非サル趣ナルニ付此際滿側ト直接話合ヲ始ムルコトヲ獎ム其ノ節當方トシテハ右話合ニ付側面ヨリ出來得ル限りノ援助ヲナス意向ヲ有ス云々程度ノコトヲ申入レ以テ當方成涉^(交渉)ニ資シ度希望ニ付右再應滿側ニ御相談ノ上回電煩度シ

126

昭和13年4月24日

在滿洲國植田大使より
広田外務大臣宛(電報)

滿ソ間諸懸案に關し滿洲國側からの譲歩は困難であり日ソ交渉に資するところなしとの見通しについて

新 京 4月24日後発
本 省 4月24日夜着

第二六九號(極祕、館長符號扱)

貴殿第四二二號ニ關シ^{(1)(電)}

井上局長へ加藤參事官ヨリ

其ノ後滿側トモ篤ト協議シタル處蘇側申出ノ三件ノ中北鐵代償金ニ付テハ滿側トシテ往電第二五二號ノ如キ蘇側申出ハ到底應諾スルヲ得ス然リトテ先ニ正當ナル請求ニ應セストノ理由ニ依リ代償金ノ支拂迄停止セル滿側ヨリ其ノ個々ノ請求ニ付キ審議方進ンテ蘇側ニ申出ツルコトハ右請求ノ當否ニ付疑義アルコトヲ恰モ容認スルヤノ印象ヲ與ヘ面白カラス次ニ不時着機ニ付テハ往電第二四一號ノ通り或條件ノ下ニ返還方申出ノ運ヒトナリ居タル處其ノ後我方飛行機不時着ノ爲事情一變シ即チ當地軍側ニ於テ右蘇聯機返還ヲ

127

昭和13年4月28日

広田外務大臣より
在満州国植田大使宛（電報）

日ソ間諸懸案解決のため北鉄代償金問題の対

我方不時着機トノ事實上ノ交換ニ資シ度キ希望アリ其ノ結果目下ノ所ハ依然從來通り取調中等ノ建前ヲ執リ我不時着機ニ對スル蘇側ノ出方ヲ待ツコトトシ度キ方針ニテ從ツテ滿側トシテハ今直ニ返還ノ意嚮ヲ表明スルヲ得サル實情ナル一方蘇側トシテモ我方飛行機不時着ノ今日ニ於テハ蘇聯機返還ニ關スル我方斡旋ノ如キハ恐ラク最早左シタル「サーヴィス」トハ思惟セサルニ至リ居ルナルヘク斯テ殘ルハ僅カニ拘留蘇聯人四名ノ釋放ナルカ前記ニ案件ノ實情如上ノ如クナル以上此ノ點ニ付假ニ滿側ニ於テ讓歩シタリトスルモ之ノミニテハ蘇側ニ取リテ問題トナラサルヘク要スルニ此ノ際貴電御來示ノ如キ申入ヲ爲シ我方ニ於テ何等斡旋スルモ事實上滿側ヨリ提供シ得ヘキモノ殆トナキ次第ニ付實際問題トシテ我方交渉ニ資スル所殆トナカルヘク旁々右程度ノ言質ヲ與ヘラルコトヲモ差控ヘラルル様致度シトノ滿側ノ意嚮ナリ

~~~~~

## ソ協議開始につき満州国へ指導方訓令

本省 4月28日発

第四八〇號（極秘）

往電第四七九號ニ關シ

加藤參事官ハ井上局長ヨリ（絕對部外秘）

「御承知ノ通り支那問題ハ正ニ乾坤一擲ノ大事業ニシテ帝國トシテ此ノ際他ノ關係ニ於テ無理ヲスル時期ニ非サルハ申迄モナキコトナルノミナラ<sup>ス</sup>事變最近ノ進展模様ニ鑑ミ此際出來得ル限り日「ソ」間諸懸案ノ落著ヲ計リ之ニ伴ヒ滿「ソ」關係モ多少共落付キ得ルニ於テハ諸般ノ關係上最モ得策ナリト思考セラルル次第ナリ

三然ルトコロ累次申進ノ通り日「ソ」間ニハ種々ノ案件<sup>（堆カ）</sup>推積シ殊ニ北樺太石油石炭利權ハ夏季ノ事業季節ヲ眼前ニ控ヘ労働者及物資送込ノ問題アリ何レモ急速ニ「ソ」側ノ許可ヲ取付クル必要アリ又北洋漁業モ差當テ幹部従業員渡航許可ノ問題アリ要スルニ我方ハ「ソ」領内ニ於テ事業ヲ營ム關係上査證又ハ輸入手續等ニ對スル「ソ」側ノ手心ニヨリ者當有效ナル防碍ヲ蒙リ得ル立場ニ在ル次第<sup>（相カ）</sup>ニテ條約上ノ重要權益擁護ノ見地ヨリ動モスレハ對

「ソ」强硬論ノ擡頭スルヲ押ヘテ日「ソ」間ノ力ニヨル摩擦ヲ除去スル爲滿側ニ協力ヲ得度ク冒頭往電ノ通り再應御配慮ヲ煩ハス次第ナリ

三、尙北鐵代償金支拂留保ニ關聯シ滿側ノ請求中表ニ記載ナキ四百三十二萬圓ニ付テハ其後モ考究スルトコロニ依レハ少シク無理ナル點アル様存セラレ(往電第二四〇號御參照)此ノ點ハ先般上京ノ東條參謀長ニモ御話シ同條諸點モ首肯シ居タル次第ナルカ實ハ北鐵協定締結ニ關與セル在莫斯科西參事官モ今般滿側カ往和ノ交渉經緯ニ拘ラス右請求ヲ爲セルハ當時ノ交渉者タル「ソ」聯外務部極東部長「カズロフスキー」ノ顔ニ泥ヲ塗リタルモノナルカ同人トシテハ何トカ顔ヲ立テサルヲ得サル立場ニ在リト考ヘラレ利權、漁業等ノ問題カ兎ニ角「カズ」ノ手ヲ經テ處理セララルニモ鑑ミ我方トシテハ此ノ際滿側カ「ソ」側ト北鐵諸問題ノ具體的商議ニ入り本件請求額ハ例ヘハ之ヲ半減スルカ如キ取計ヲ爲スコトヲ得ハ好都合ト考ヘラルトノ意見申越ノ次第モアリ右ハ機微ナル關係モアリ茲ニ全ク内密ノ御含迄申上クル次第ナルカ此等ノ事情モ御考量ノ上適當滿側ヲ御指導方特ニ(懇カ)願スル次第

ナリ

128

昭和13年4月29日

在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛(電報)

日ソ間諸懸案交渉經過に関するタス報道振りについて

別電

昭和十三年四月二十九日發在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛第五三四号

右報道内容

モスクワ 4月29日前發

本省 4月29日後着

第五三三號

二十五日井上局長「スメターニン」交渉ニ關スル貴電合第一三一八號ハ漸ク二十八日夕刻ニ至リ接到セリ日蘇諸懸案交渉ニ關スル二十六日ノ同盟放送ハ右交渉後ノ發表トモ思ハルルカ他方本件蘇側發表ハ大體往電第五二二號ノ通りナルモ正確ヲ期スル爲且ハ冒頭貴電ノ内容ト照合スル御便宜ノ爲二十八日新聞掲載ノ「タス」發表後半全譯ヲ別電第五三四號ノ通り電報ス

(別電)

尙右貴電ニ依レハ井上局長ノ主張セラレタル(二)ニ於テハ邦人八名ノミノ釋放ヲ要求セラレタル處貴電第一七三號ニ依レハ八名ノ外抑留中ノ邦人約三十名モ一括釋放ヲ要求セラレ居リ此ノ點以前ノ主張ト相違スル様思考セラルル處果シテ然リヤ御回示アリ度シ尙又本件交渉ノ經過ハ蘇聯ノ對支援助ニ對スル我方抗議交渉ノ内容ト共ニ發表セラレテハ如何カト思考ス而シテ蘇側ノ宣傳タル「タス」報道ノ如キハ同盟ヲシテ配布セシメサルコト然ルヘシト存ス

モスクワ 4月29日前發

本省 4月29日後着

第五三四號

四月四日ノ蘇側提議ニ關スル交渉其ノ後ノ經過ニ付「タス」カ權威アル筋ニ就キ確メタル所左ノ通りナリ「スラウツキー」ノ提議ニ對スル日本外務省ノ回答ハ要スルニ郵便飛行機、「ダリレス」機艇<sup>(汽カ)</sup>ノ乗客及北鐵支拂ニ付テハ蘇政府ハ滿洲國政府ニ申入ルヘシ尙蘇政府ハ日本利權社ノ諸請願ニ對シ蘇側經濟機關力爲スヘキ讓歩ヲ明カニス

ル外蘇側提案ニ豫見セラレサル漁業條約即時調印、在哈府及武市日本領事館ノ存置其ノ他ノ日本政府要求ニ満足ヲ與フヘシト言フニアリ

其ノ間「ク」號ハ船長カ日本裁判所ノ課セル罰金ヲ納付セル後漸ク乗組員ト共ニ日本ヲ出帆スルコトヲ得タリ

四月廿五日東京蘇大使館ハ日本外務省ノ右對案ニ對スル回答トシテ左記申出ヲ爲セリ

蘇政府カ四月四日附提議ヲ爲シタルハ兩國ノ一般生活ニ抵觸セス又一方ニ不便ヲ與ヘ他方ニ利益ヲ與ヘサル諸問題ハ急速解決容易ニシテ是等問題ヲ同時ニ解決スルコトハ雙方ニ取り望マシク且明カニ利益ナリト認メタル爲ニシテ斯ル考慮ニ基キ蘇政府ハ最終的決定ヲ見最早變更ノ餘地ナキ在哈府及武市日本領事館竝ニ在小樽及神戸蘇聯領事館ノ閉鎖問題ノ如キ又ハ緊急ノ問題ニアラサルモ之カ解決ニハ長期手續ヲ要スル漁業條約調印問題ノ如キハ之ヲ右提案中ニ包含セシメサリシ次第ナリ

然ル所日本政府ハ遺憾乍ラ蘇側提案ヲ受諾セス却テ事態ヲ紛糾セシムルカ如キ追加要求ヲ提示シ且蘇側要求ノ解決ニ付テハ滿洲國ニ申入ルヘシト言ヘリ吾人ハ日本政府ニ對シ

滿洲國ニ依ル蘇聯邦利益ノ侵害ニ付同政府カ責任ヲ避クルコト能ハサル外北鐵債務支拂ニ對スル日本政府ノ責任ナルモノハ協定中ニ二重解釋ノ餘地ナキ程明確ニ規定セラレ居ル旨屢申入レタルモ問題ノ至急解決ヲ圖ル爲滿洲國官憲ニ申入レタリ然ルニ郵便飛行機問題ニ付テモ「ダリレス」汽艇問題ニ付テモ滿洲國ヨリ満足ナル回答ヲ取付クルニ至ラサリシナリ北鐵債務支拂ニ付テハ協定中ニ國庫債券ハ無條件ニ支拂ハルヘク又反對要求ノ提出ヲ許ササル旨記載シアリニ拘ラス滿洲國ハ同債券支拂義務ヲ更ニ回避シ且又反對要求ヲ提出セリ蘇政府ハ滿洲國ノ利益トスル問題ニアラスシテ日本政府ノ利益トスル若干問題ノ解決ニ應スル用意ヲ表明シ居ルモノナルニ依リ吾人ハ日本政府ニ於テモ吾人ノ利益ヲ感スル諸問題ノ解決ニ應セラレンコトヲ期待シ右茲ニ重ネテ申入ルルモノナリ右問題ノ範圍ハ四月四日附前記提案中ニ明確ニ記載セラレ居レリ

吾人ハ吾人ノ爲セル提案ニ對シ日本政府ヨリ最終的同意ノ回答ヲ期待スヘシ若シ同意の回答ニ接スルニ於テハ吾人ハ現行契約ニ基キ直ニ眞ニ可能ナル利益關係要求ヲ明カニスル用意アリ

右申入ニ對シテハ未タ日本側回答ニ接セス



129  
昭和13年5月4日

### 日ソ間諸懸案交渉の經過に関する情報部長談話

日「ソ」諸懸案交渉經過ニ關スル情報部長談話

(五月四日)

去ル三月下旬以來東京ニ於テ廣田大臣ト「ソ」聯大使トノ間ニハ或ハ井上歐亞局長ト「ソ」聯大使館參事官トノ間ニ數回ニ亘リ日「ソ」兩國間諸懸案ノ調整問題ヲ繞リ話合カ行ハレタカ今日迄ノ交渉經過ノ大要ハ左ノ通テアル。

一、三月二十八日廣田大臣ト「ソ」聯大使トノ間ニ兩國間懸案解決方ニ關シ話合カアツタノニ對シ四月四日「ソ」政府カラ次ノ方法ニヨル諸懸案調整ニ關スル提案カアツタ。即チ日本側ハ

- (一) 北滿ニ不時着シタ「ソ」聯飛行機ノ返還
- (二) 南樺太ニ抑留中ノ「ソ」聯汽艇「ウイムヘル」號ノ釋放
- (三) 函館ニ抑留中ノ「ソ」聯汽船「クズネツクストロ

イ」號ノ釋放

(四) 黑河附近テ抑留サレタ「ダリレス」所屬汽艇乗組員四名ノ釋放

(五) 北鐵代償最終割賦金ノ滿洲國又ハ保障者ノ立場ニ在ル日本ニヨル支拂

ヲ實行シ之ニ對シ「ソ」側ハ

(一) 國外追放ヲ差控ヘ居ル八名ノ日本人ノ釋放

(二) 朝鮮漁船三隻及乗組員ノ釋放

(三) 坂井組合ノ北樺太「アグネオ」石炭利權取消通告ノ撤回

(四) 北樺太石油及北樺太鑛業兩會社ノ經營スル利權事業ニ關スル諸問題ニ對スル好意的審議

(五) 日「ソ」小包交換ノ復活

(六) 在「オハ」日本領事館閉鎖要求ノ撤回、即チ日本側ハ武市及哈府ノ二館、「ソ」側ハ在本邦領事館中ノ二館ヲ夫々閉鎖スル事

ヲ實行スルコトニシタイト申出テタ。

ニ、然ルニ右「ソ」側ノ提案中(一)及(五)ハ何レモ、滿「ソ」間ノ問題テアリ滿側ト話合フヘキ筋合ノモノテ殊ニ(五)ハ

「ソ」政府カ滿洲國ニ對シ履行スヘキ債務ヲ滿側ノ督促ニ拘ラス履行セヌ爲滿側ニ於テ止ムナクソノ最終割賦金ノ支拂ヲ留保シテキルノテアリ又「ソ」側カ實行ヲ約シタモノノ中邦人八名ノ釋放ハ勿論テアルカ其他ニ拘引禁足中ノ邦人約三十名ヲモ釋放スヘキモノテアリ(四)ハ甚タ漠然トシテ居ルカ石油利權ニ付テハ會社従業員ノ起訴及處罰問題、「カタングリ」海底送管敷設問題、邦人労働者送込問題、物資輸入制限問題等、石炭利權ニ付テハ邦人労働者送込問題、物資輸入制限及配給品値下問題、會社従業員起訴及處罰問題、會社船舶ノ亞港寄港及港灣稅支拂問題等カアリ何レモ條約及利權契約ニ確約サレテ居ル我方權利ノ行使カ直接、間接阻止サレテ居ルモノ許リテ是等ニ關シ「ソ」側カ具體的ニ如何ナル取扱ヲ爲サントスルカヲ明示スヘキモノテアル(六)ノ領事館問題ハ一方的決定ヲ以テ處理サルヘキモノテナク話合テ協定スヘキモノテアルトスル我方主張ニ讓歩ノ餘地ナク漁業條約ハ一昨年確定シタ案文ノ「ライン」ニ依リ速ニ調印スヘキモノテアルノテ四月六日井上歐亞局長ハ「ソ」聯參事官ニ對シ右ノ趣旨ヲ申入レタノテアル。

三、然ルニ「ソ」側ハ四月十日一方のニ在哈府帝國總領事館及在武市帝國領事館ハ同月十五日ヲ限り閉鎖アリタシト現地ニ通告シテ來タノテ我方ハ十一日之ニ對シ「ソ」側ノ態度ヲ責メ話合カ纏ル迄閉鎖通告ノ撤回ヲ強く要求シ又我方カ八日「クズネツクストロイ」號ヲ釋放シタルニ對應シ不取敢邦人八名ヲ即時釋放シ諸懸案解決ニ一步ヲ踏ミ出サンコトヲ求メタルノテアルカ「ソ」側ハ十四日ニ至リ領事館ノ閉鎖通告ハ「ソ」政府ノ決定ニ基クモノテアルカラ撤回ハ出來ヌ邦人釋放ニ付テハ未タ何等訓令ニ接シテ居ラヌト述ヘタルノテアルカ我方カ抑留中ノ一船ヲ釋放シ問題ノ解決ニ一步ヲ踏ミ出シタルニ反シ「ソ」側ノ態度ハ甚タ誠意ヲ缺クモノト認メサルヲ得ヌノテ我方ハ此點ヲ指摘シ強ク「ソ」側ノ反省ヲ促シ以テ出方ヲ注視シテ居タルノテアルカ四月二十五日ニ至リ「ソ」側ハ同月四日ノ「ソ」政府提案ノ範圍内ニ於テ兩國懸案解決ノ用意アル旨ヲ重ネテ申出テ來タルノテ二十八日我方ヨリ「ソ」政府提案ニ對スル我方ノ意向ハ同月六日以來繰返シ開示シタル所テアルカ誤解ナキ様更ニ具體的<sup>(1)</sup>言ヘハ領事館問題ニ付テハ交渉中ノコトニモアリ我方ハ哈府及武市

二館ニ對スル閉鎖通告ノ撤回ヲ求ムルコトニ變リナク「ソ」側ニ於テ撤回スルナレハ在本邦「ソ」聯通商代表部部員減員方ノ我方要求ノ實行ヲ領事館問題ノ話合纏マル迄差控フル様取計ツテ宜シイ邦人釋放ニ付テハ我方カ「ク」號ヲ釋放シタル以上之ニ對應シ少クトモ問題ノ八名ヲ即時釋放シ諸懸案解決ニ二步ヲ進ムヘキテアル「ウ」號モ乗組員共ニ釋放方盡力スヘキニ付「ソ」側ニ於テモ右八名以外ノ收監、拘引、禁足中ノ邦人全部(約三十名)ヲ釋放アリ度イ利權問題ニ付テハ當業者カラ申請中ノ種々ノ案件ニ對シ速ニ満足ヲ與ヘラレ度ク然ル上ハ東京又ハ莫斯科二日「ソ」混合委員會ヲ設置シ隨時今後ノ利權問題ノ審議ニ當ラシムルコトヲ提議シテヨイ漁業條約ハ一昨年確定シタ英文ノ「ライン」テ調印方要望スル其ノ他坂井組合ノ利權取消撤回、朝鮮漁船ノ釋放、日「ソ」小包交換復活等ノ實行ヲ求メル。

次ニ滿洲國關係問題ハ豫々説明ノ通り「ソ」側ニ於テ直接滿側ト話合ヲ進ムヘキ問題テ日本側ニ持出スヘキ筋合ノモノテナイト我方ノ立場ヲ明ニシ「ソ」側ニ於テ速ニ誠意ヲ披瀝シ諸懸案解決ニ協力センコトヲ要求シタルノテアル。

之ヲ要スルニ帝國政府ハ兩國關係正常化ノ爲ニ日「ソ」間諸懸案ノ解決ニ努力シ「ソ」側ノ提案ニ對シテハ誠意ヲ以テ對處シテ居ルノテアルカ「ソ」政府ハ口ニ歩ミ寄ル用意アリト言ヒ乍ラ實際ニ於テハ領事館閉鎖問題ノ如ク交渉中ナルニモ拘ラス一方的決定ヲ以テ我ニ領事館ノ職務執行ヲ拒否シ引揚ヲ強要スルカ如キ態度ニ出テ又我方カ國法ノ許ス範圍ニ於テ「ソ」聯船舶ノ釋放ヲ斡旋シ懸案解決ニ一步ヲ進ムルノ實ヲ示シタノニ拘ラス一旦聲明シタル抑留邦人ノ釋放ヲ一向實行セヌノテアル此ノ外我北樺太石油石炭利權ニ關スル數多ノ問題ノ如キ條約及利權契約ノ規定ニ依レハ當然我當業者ノ要望カ満足セラハヘキ筈ノモノテアルニ拘ラス依然トシテ未解決懸案ノ一重要部分ヲナシテ居リ爲ニ兩利權業者ハ本年事業開始ヲ目前ニ控ヘテ去就ニ迷ツテ居ル狀態テアル之等ノ事態ニ對シテハ繰返シ「ソ」政府ノ深甚ナル考慮ヲ促ササルヲ得ナイ。

**編注** 本文書は、昭和十三年十二月、外務省作成「外務省公

表集」第十七輯より抜粋。

130

昭和13年6月1日

在滿州國植田大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

### 日滿ソ間における諸懸案交渉の今後の取り進

#### め方につき意見具申

新 京 6月1日後発

本 省 6月1日夜着

第三六三號(館長符號扱、大至急)

往電第三六二號ニ關シ

井上局長ヘ加瀬ヨリ

一、關係方面ト懇談致シタルカ滿側トシテハ何ウシテモ一應諸案件ヲ竝ヘテ申入レ蘇側ノ出様ヲ見テ然ルヘク落着ケ度キ強キ意嚮ニ付我方トシテハ滿側ヲシテ實際ノ折衝中ニ於テ我方ノ案ノ範圍内ニ落着セシメ第一段ノ解決ヲ計ラシムル外無之様存セラレ亀山處長及山岡中佐ニハ小官ノ考トシテ篤ト話シ了解ヲ得置キタル積リナリ

二、此ノ際蘇側ニ對シテハ(一)「ウキンペル」號ニ付テハ我方ニ於テ同船及乗組員十七名全部ヲ釋放スル用意アルニ付蘇側モ邦人十六名及朝鮮漁船三隻(乗組員共)ヲ同時的ニ釋放アリ度シ(二)蘇聯不時着機及「ダリレス」汽艇乗組員

四名ニ付テハ滿側ニ於テ何時ニテモ返還ノ用意アル由ニテ但シ右ニ付テハ滿側ニ若干ノ註文アリ蘇側ニ取り格別困難ナモノトハ思ハレサルニ付至急滿側ト直接話合ハレ度シ尙滿側ハ此ノ際成ルヘク其ノ他ノ諸案件ヲモ一齊解決シ度キ意嚮ニテ種々申合アル筈ニテ或ハ既ニ哈爾賓ニテ申出アリタルヤモ知レサル處蘇側ニ於テ虚心坦懷話合ハレ度ク不時着機及「ダリレス」四名ノ返還ニ付テハ滿蘇間ノ話合様ニテ<sup>決カ</sup>解除スルモノト考フ等然ルヘク申入相成リテハ如何ト存セラル蛇足乍ラ申上ク

三、往電第三五五號申入ニ付テハ哈爾賓トノ電話聯絡出來サル爲確實ニ申兼ヌルモ龜山ヨリ下村特派員ヘハ二十八日電報シ居ルニ<sup>付キ</sup>次既ニ申入濟トシテ御措置相成リ差支ナシト存ス

四、此ノ際日、滿、蘇間ニ不必要ナル摩擦ヲ除去スルコトニハ當地軍側及滿側共異存ナク例ノ抑ヘ居ル人、船、飛行機等ヲ交換のニ返還スルコトモ夫レ自體ニハ異議ナク仍テ滿側ノ面子ヲ立テツツ我方斡旋ノ御利益ヲ然ルヘク蘇側ヘ仄メカシ我方ノ對蘇交渉力ヲ強メラルルコトハ一向差支ナシト存ス

131

昭和13年6月22日

宇垣外務大臣より  
在滿州国植田大使宛(電報)

### 日ソ間諸懸案交渉の進捗につき滿側へ通報方訓令

本省 6月22日後8時發

第六六七號(至急、極秘)

往電合第一九七一號ニ關シ

加藤參事官ヘ井上局長ヨリ

日「ソ」間懸案交渉ニ於テ「ウインペル」號ノ釋放ニ關聯シ我方ヨリ執拗ニ釋放又ハ起訴禁足解除方要求シ居タル邦人十七名中「ソ」側ハ十七日附北樺太石油「オハ」鑛業所長(現場従業員ノ最上位者)以下六名ノ起訴禁足ヲ解キ兎ヤ角言ヒナカラモ事實上少シジツ讓歩シ來リ居ルニ付此ノ機會ニ往電第三八七號蘇側ガ釋放ノ用意ヲ示シ居ル邦人八名(其中鑛業會社員五名石油會社員二名)ハ何レモ事業ニ必要ノ人員ニテ殊ニ石炭利權ニ取りテハ右社員ノ釋放ハ事業着手ニ重大ノ關係ヲ有スル如シ)及朝鮮漁船三隻(乘組員二十二名)ノ釋放ヲ交換トシテ樺太ニ抑留中ノ「ウ」號(乘組員十七名共)ヲ返還スル方針ノ下ニ最近ノ機會ニ「ソ」側ト話合ヲ行ヒタキ所存ナリ右ハ冒頭往電十七日我方對「ソ」

## 1 日ソ諸案件交渉

申入ノ趣旨ニ依ル次第第二シテ且滿側交渉ニ惡影響ナキモノト判斷セラルルモ今日迄ノ行掛リヨリ一應事前滿側ノ諒解ヲ得置キ度ニ付至急右諒解取付方御配慮相成度シ尙滿蘇間ノ話合ハ段々ノ御配慮ニ依リ繼續セラレ居ル處右促進方此上トモ御盡力煩度シ

132

昭和13年6月22日

在ソ連邦西臨時代理大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

日ソ間諸懸案交渉妥結の前提となる北鉄代償  
金問題解決のための政府方針内示方要請

モスクワ 6月22日後発

本省 6月23日前着

第七九四號(極秘)

日蘇諸懸案解決交渉ハ北鐵代償金問題解決セサル限り全般  
的妥結困難ニシテ右妥結成ル迄ハ蘇側ハ漁業利權等ニ付種  
々支障ヲ構フヘシト觀測セラルル處同問題ハ何等カノ方法  
ニテ妥結ノ御意嚮ナリヤ承知セサルモ妥協ノ一案トシテハ  
代償金ノ一部(特ニ表ニ記載ナキ北鐵債權ニ該當スル金額)  
ニ付現金拂ノ代リニ物資拂ヲ以テスル案モ考慮シ得ヘキニ

付右御參考迄

尙本件處理方ニ付本省御方針御内示ヲ得ハ好都合ト存ス

133

昭和13年6月24日

在滿州国植田大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

滿ソ間交渉促進のため不時着ソ連機の返還に  
応じるとする滿州国側意向について

新京 6月24日前発

本省 6月24日後着

第四三三號(至急、極秘)

貴電第六六七號ニ關シ「ウインペル」號返還及乗組員釋放  
ノ件)

井上局長ヘ加藤參事官ヨリ

滿側ニ於テ異存ナキ趣ナリ尙不時着機問題ニ關シ蘇側力累  
次往電ノ通り先ツ蘇聯機ノ返還方ヲ主張シ居レルカ飛行機  
ノ性質及不時着機等ヨリ蘇側ノ面子上無理カラヌコトニテ  
旁本件ニ關スル今日迄ノ滿蘇間交渉ニテ蘇聯機ノ返還ニ關  
聯シ日本機返還ノ話合ニ應スル意嚮ヲ表明スルニモ鑑ミ此  
ノ際從來ノ同時返還方ノ主張ハ此ノ程度ノ收穫ニテ満足シ

滿側トシテハ適當ノ時機ニ蘇聯機ヲ返還シ之ヲ契機トシ他ノ滿蘇間諸問題ノ解決ヲ促進スルコトトシ度キ意嚮ナリ就テハ滿側ヲシテ右様取計ハシメ差支ナキヤ御回電ヲ請フ  
軍側ト打合濟

134 昭和13年6月25日 宇垣外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

北鉄代償金問題における満州国側譲歩の見通  
について

本省 6月25日後7時25分發

第三五〇號(極秘)

貴電第七九四號ニ關シ

日「ソ」懸案交渉ニ於テ「ソ」側ハ四月四日ノ提案ヲ一步モ引カサル如キ言分ヲナシ居ルモ話合ヲ重ネ行クニ連レ實  
際上僅カナガラモ漸次譲歩シ居リ旁々往電第三四二號及第  
三四五號ノ件ノ成行次第ニテハ若干空氣ノ緩和ヲ見ルニア  
ラスヤト觀測ス

北鐵代償金支拂問題ニ付テハ滿側ニ於テモ曩ニ「ハルビン」ニ於テ「ソ」側ヘ申入レタル各種對抗要求中例ノ表ニ

記載ナキ債權ニ付テハ實際ノ話合ニ於テ或程度折合フ意向ハアル趣ニテ又年金「カピタリゼイション」ニ付テモ必スシモ二年ヲ固執スル考ヘハナキ模様ナルカ目下ノ「ソ」側ノ態度ニ鑑ミ滿側ヨリ前記債權等ニ付無條件ノ譲歩ヲナスコトハ面白カラスト認メ居ルモノノ如シ  
旁々我方トシテハ折ニ觸レ「ハルビン」ノ滿「ソ」間話合促進方ヲ「ソ」側ヘ勸告シ少クトモ茲暫ク右話合ヲ見送ルコト適當ト認メ居ル次第ナリ

編注一 往電第三四二號は昭和十三年六月二十二日發宇垣外務

大臣ヨリ在滿州国植田大使宛電報第六六七号(第131文書)を在ソ連邦重光大使宛に転電したもの。

二 往電第三四五号は昭和十三年六月二十四日發在滿州国

植田大使より宇垣外務大臣宛電報第四三三号(第133文書)を在ソ連邦重光大使宛に転電したもの。

~~~~~

135 昭和13年6月29日 宇垣外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

在本邦ソ連代理大使に対しウインベル号釈放提

議と共に被拘禁邦人の釈放に関し確認について

本省 6月29日前10時50分発

第三六二號

往電第三四二號ニ關シ

(編注)

二十七日「スメターニン」堀内次官へ來談ノ機會ニ次官ヨリ冒頭往電ノ趣旨ニ依リ「ウ」號釋放ニ關スル提議ヲ爲シ起訴禁足中ナリシ邦人九名ノ内殘リノ三名ハ本日ノ提議中ニハ含マシメサリシモ之カ起訴解除ノ要求ヲ「ドロップ」セル譯ニハ非ル旨念ヲ押シタル處「ス」ハ今日ノ御提案ハ十七日ノ夫(往電合第一九七一號)ニ比シ新シキモノナシト思フモ早速莫斯科へ報告スベシト答ヘタル趣ナリ

編注 第134文書編注一に同じ。

~~~~~

136

昭和13年7月1日

宇垣外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

在本邦ソ連代理大使よりウィンペル号および  
被拘禁邦人釈放に関する日本側提議受諾方申  
越しについて

第三六四號

本省 7月1日後8時30分発

往電第三六二號ニ關シ

一日「スメターニン」堀内次官ヲ來訪シ蘇政府ハ我方提議ヲ受諾セル旨申述ヘタリ依ツテ次官ヨリ本件彼我抑留船舶及人員交換ノ實行方法ニ就テハ貴方ニ於テ歐亞局長ト協議決定アリタシト述ヘ「ス」之ヲ了承セル趣ナリ

~~~~~

137

昭和13年7月7日

宇垣外務大臣より
在ソ連邦重光大使宛(電報)

被拘禁邦人引渡しの手順に関しウィンペル号
釈放を先行すべしとの在本邦ソ連代理大使申
入れについて

本省 7月7日後5時30分発

第三七六號

往電第三六四號ニ關シ

實行ノ細目打合ノ爲メ四日加瀬ヲシテ「ロードフ」書記官ヲ招致セシメ我方トシテハ本月八日安別附近ノ海上國境(樺太廳ニ就キ問合ノ結果安別ヨリ約三哩ノ海上東經百四

十二度北緯五十度ノ地點ト決定ニ於テ「ウ」號(船長以下乗組員十七名共)及邦人八名ヲ相互ニ引渡シ又ソ側ハ同日朝鮮漁船三隻(乗組員二十二名共)ヲ圖們江河口ニ於テ朝鮮官憲ニ引渡ス事トシ度キ旨申入レ「ソ」政府ノ都合確メ方要望セシメタル處六日「スメターニン」井上局長ヲ來訪日本官憲カ不法ニ抑留セル「ウ」號ト「ソ」聯法規ニ觸レ抑留中ナル日本人八名トヲ同時ニ交換のニ釋放セントノ日本側提議ハ「ソ」側ヲ侮辱スルモノニシテ先ツ以テ日本側ニ於テ「ウ」號ヲ即時釋放セハ「ソ」側ニテモ日本人八名及朝鮮漁船三隻ヲ即時釋放スヘキ旨「ソ」政府ノ名ニ於テ申出ツル旨述ヘタリ依テ局長ハ「ソ」政府カ曩ニ兩國ノ抑留者ヲ相互ニ釋放スル事ニ同意シタルニ不拘今ニ至リ引渡シノ後先ヲ云々シテ解決ヲ故意ニ遷延セシムル不信ヲ詰リ我方要求ノ妥當ナル所以ヲ反復説明シタル處「ス」ハ同人ノ受ケ居ル訓令ニテハ同意シ難キニ依リ本國政府ヘ報告シ回訓ヲ請フ事トスヘキ旨答ヘタル趣ナリ

在滿大使ヘ轉電セリ

~~~~~

138

昭和13年7月29日

宇垣外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

被拘禁邦人引渡しの手順に關シウィンペル号

釈放に先立ち朝鮮漁船釈放を行うとの新案を

在本邦ソ連代理大使申入れについて

本省 7月29日後7時30分發

第四二一號

往電第三七六號ニ關シ

去二十三日「スメターニン」代理大使井上局長ヲ來訪「ソ」側ニ於テ先ツ(一)朝鮮漁船二隻(永徳丸ハ沈没シ居レリ)及乗組員二十二名ヲ釋放スヘキニ付之レニ對シ日本側ニテ(一)「ウ」號及乗組員十七名ヲ釋放サレ度ク其上ハ「ソ」側ニ於テ(三)八名ノ日本人ヲ遲滞無ク釋放スヘシト言ヘリ依テ局長ヨリ我方カ曩ニ出セル同時釋放案ナラハ固ヨリ差支ナキモ今日申出ノ案ハ受諾シ難シ但シ折角ノ申出ニ付(三)(一)ノ順序ニテ釋放スル案ナラハ自分限りノ裁量ニテ承諾スヘシト答ヘタル趣ナルカ「ス」ノ希望モアリ後刻右井上案ヲ外務省トシテ新ニ提議スル旨電話セシメ置キタリ然ルニ二十八日「ス」ハ本大臣ニ面會ヲ求メタルモ差支アリ堀内次官

ニ於テ面接セルニ「ス」ハ「ソ」側提案ヲ我方ニ於テ受諾セサルハ遺憾ナリ元來八名ノ出國阻止ハ「ウ」號抑留ニ對スル報復處置トシテ爲セルモノニシテ此關係ヲ日本側ニ於テ認識セハ「ソ」側ノ提案ノ妥當ナル事ヲ了解セラルヘキ筈ナリト言ヒ再考方希望スル旨述ヘタルヲ以テ次官ハ局長ノ述ヘタル方法最モ實際且妥當ナリト思考ス報復云々ハ「ソ」側カ勝手ニ主張シ居ル處ニシテ我方トシテハ「ウ」號以前ノ問題タル八名ノ邦人ノ出國ヲ實現シ然ル上「ウ」號ヲ片附クルカ穩當ナリト認ムルモノニシテ此種問題ハ面倒ナ事ヲ言ハス解決ヲ計ルヘキナリ我方トシテハ邦人八名及「ウ」號ヲ同時ニ同一地點(曩ニ我方ヨリ提議セル安別附近ノ海上)ニ於テ互ニ引渡シ次テ「ソ」側ヨリ朝鮮漁船ヲ釋放スル事ヲ提議シ差支ナシト述ヘタルニ「ス」ハ右一應莫斯科ヘ報告スヘシト答ヘタル趣ナリ

在滿大使ヘ轉電セリ

~~~~~

139

昭和13年7月30日

在ソ連邦重光大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

被拘禁邦人釈放問題におけるソ連側申入れは

張鼓峰事件により激化した日ソ關係に対する
外交上の策略であるとする観測について

モスクワ 7月30日後発

本省 7月31日後着

第九九九號

貴電第四二一號ニ關シ(邦人八名、朝鮮漁船及「ウ」號釋放問題ニ關スル件)

右蘇側申入ハ當地ニ於ケル張鼓峰事件申入直後ニ決定セルモノナルコト明カニシテ(特ニ大臣ニ會見ヲ求メタルカ如キ)其ノ目的ハ懸案解決ニ重キヲ置クヨリモ寧ロ張鼓峰事件ニ依リテ激化セラレタル兩國ノ關係ニ對スル外交上ノ策略(タクチカル・マニユーバー)ニ在リト見ラル即チ之ニ依リテ激化セル關係ノ幾分ノ緩和ヲ東京ニ於テ圖ルト共ニ他方事件ニ對スル日本側態度ノ底意ヲ確メントスルニ出テタルモノト思ハル右ハ張鼓峰事件ニ對スル東京ノ態度力當地出先ノ態度ヨリモ遙ニ緩和シタルモノナルカノ如キ英文通信ニ依リ「エンカレジ」セラレタル感アリ

前記ノ如キ蘇側ノ遣口ハ往電第三八六號蘇側ノ對支援助ニ對スル抗議申入ノ際ニ之ニ對スル策略(マニユーバー)ト

シテ東京交渉ノ申入ヲ爲シタルト同一轍ニシテ(當時モ出先ノ抗議ト東京ノ態度トノ間ニ懸隔アル印象ヲ蘇側ハ受ケタリ往電第四二二號)

以上ノ蘇側態度ヨリ見ルモ假令局地的衝突ヲ見ルモ先方トシテハ全面的衝突ハ之ヲ避ケントスルモノナルコト略明カナルカ又先方ノ此ノ際持出シタル邦人釋放事件ノ解決等ニ付テモ終始一貫我方主張ヲ堅持スルコト必要ナリト思考セラル

此ノ間ノ消息ハ既ニ御賢察ノコトト存スルモ氣付ノ儘申進ス



140 昭和13年9月30日 外務省より
在本邦ソ連邦大使館宛

抑留者引渡しの手順に關しソ連側回答督促の

ための口上書

歐一普通第三六號

口上書

帝國外務省ハ在京「ソヴィエト」聯邦大使館トノ間ニ重ネラレタル話合ニ基キ左記方法ニ依リ「ウキムベル」號、ハ

名ノ日本人及三隻ノ朝鮮漁船ノ釋放問題ヲ急速ニ解決シ度キ希望ヲ有スルニ付出來得ル限り速カニ「ソヴィエト」聯邦政府ノ意向ヲ照會ノ上同示アランコトヲ在京「ソヴィエト」聯邦大使館ニ要望スルノ光榮ヲ有ス

記

一、日本側ハ「ウキムベル」號及乗組員十七名ヲ釋放ス、但同船ハ曳航ヲ可トスルヲ以テ安別附近國境ノ海上ニ於テ出迎ヘノ「ソヴィエト」官憲ヘ引渡スコト

二、「ソヴィエト」側ハ在京「ソヴィエト」聯邦大使館カ日本外務省ヨリ「ウキムベル」號力全乗組員ト共ニ釋放セラレ出迎ヘノ「ソヴィエト」官憲ヘ引渡サレタル旨ノ通報ニ接シ次第直チニ抑留中ノ日本人八名(相見富次、菅原清一、小林大助、尾島周司、淺田茂麿、谷川太郎、小杉吉榮、吉田豐作)ヲ釋放スルコト

右八名ノ日本人ハ釋放ト共ニ出國査證ヲ附與セラレ日本總領事館ヘ引取ラレ最近ノ便船ニテ亞港又ハ浦潮ヨリ出國スルコト

三、「ソヴィエト」側ハ之レニ引續キ朝鮮漁船二隻(大榮丸、富生丸及榮德丸三隻ノ中榮德丸一隻ハ沈没)ヲ乗組員二

十二名ト共ニ釋放スルコト

四、尙釋放スヘキ人及船舶ニ就テハ「ウキムペル」號釋放前相互ニ其所在地ヲ豫メ通報スルコト

昭和十三年九月三十日

~~~~~

141

昭和13年11月20日 在ウラジオストク七田(基)総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

被拘禁邦人の引渡し完了について

ウラジオストク 11月20日前発

本 省 11月20日夜着

第四四四號(至急)

往電第四四二號ニ關シ

本二十日午後三時さいべりや丸船上ニ於テ北樺太鑛業會社社員五名(氏名往電記載ノ通り)朝鮮漁船關係十七名ノ引渡ヲ受ケ國境守備隊代表「シエロモフ」ト共ニ引渡調書ニ署名セリ尙拘禁者ハ健康狀態何レモ良好ニシテ本夕出帆ノ右定期船ニテ歸還ノコトニ取計ヘリ  
蘇、亞港、朝鮮外務部長ヘ轉電セリ

編 注

昭和十三年十一月十六日發棟居正儀樺太庁長官より有田外務大臣宛至急電によれば、十六日午後四時十分に安別沖合において、ウインペル号の乗組員および船体の引渡しは完了した。

~~~~~

142

昭和14年5月4日 在ソ連邦西臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

リトビノフの外務人民委員辭職について

モスクワ 5月4日後発

本 省 5月4日夜着

第五〇八號

「リトヴィノフ」ハ依願免職トナリ外務人民委員ハ「モーロトフ」總理兼攝スルコトナリタル旨四日發表セラル

~~~~~

143

昭和14年5月5日 在ソ連邦東郷大使より  
有田外務大臣宛(電報)

リトビノフ辭職の背景に関する観測

モスクワ 5月5日前発

本 省 5月5日前着

第五一一號(至急、極秘)

往電第五〇八號ニ關シ

「リトヴィノフ」辭職ニ付テハ三日夜「タス」報及「ラヂオ」放送アリシノミニテ外務部ヨリハ外國記者ニモ通報等ナク翌日「リ」ハ既ニ六十三歳ノ高齢ニテ心臓モ弱リ居ル旨説明セルニ過キサル程度ナルカ本官最近面談ノ際モ血色良ク殊ニ漁業交渉ノ際ノ如キハ精力絶倫トノ印象ヲ受ケタリ旁病氣等自己ノ發意ニ基ク辭職ニアラサルカ如ク一説ニ依レハ「リ」自身モ三日正午過迄自己ノ進退ニ付知ル所ナカリシト言フ

「リ」ハ「チチエリン」時代ノ次官ヨリ引續キ外務人民委員トシテ在職十年若手進出ノ現時ニ於テハ最モ古キ政府要人ナルカ彼ノ主唱セル集團保障政策ハ特ニ日獨防共協定以來國內ノ彈壓政策トモ關聯シ漸次蘇聯ヲ孤立ノ形勢ニ立到ラシメ

幾度カ辭職ヲ傳ヘラレ乍ラ責任ヲ問ハルコトナク今日迄留任セルハ對外的影響ヲ考慮セル點多シト認メラルル處最近ノ出來事中彼ノ責任ヲ問ハレ又ハ其ノ留任ヲ困難ナラシメタリト推測スヘキモノヲ擧クレハ

(イ)對日關係ニ於テハ張鼓峰事件交渉當初蘇側カ對日認識ヲ誤リタルコトニ關聯シ「ストモニヤコフ」ノミハ辭職セリ又漁業交渉ハ年内ニ蘇側主張通り妥結シテ第一次の成功ヲ收ムルコト能ハス兩國關係ヲ紛糾セシメタリ

(ロ)三月ノ黨大會ニ於テ「スターリン」ハ獨ノ東方進出ノ危険ハ左程ニモアラサル趣旨ヲ聲明シタル直後「チエツコ」事件ノ發生ヲ見タリ

(ハ)<sup>3)</sup>特ニ最近ノ問題トシテハ從來英佛ニ「ファツシヨ」國排撃ヲ囑シ乍ラ近時英佛ノ對獨伊態度強化セルニ拘ラス蘇聯自ラハ成ルヘク「コンミット」セサルコトヲ得策トスル事情(往電第四七九號「ジュルナル、ド、モスコ」ノ休刊モ此ノ邊ノ事情ヲ語ルモノノ如シ)

右ノ内(ハ)ハ辭職ノ近因ト考ヘラルル處元來蘇聯ノ對外國策ハ自國安全ヲ第一トシ之カ爲ニハ國外ヨリノ危險ヲ成ルヘク他ニ振向ケントシ自ラ火中ノ栗ヲ拾フヲ欲セス「コミンテルン」ノ活動ノ如キモ當面ノ任務ハ此ノ方向ニ在リト認メラレ從テ「リ」ノ辭職ハ何等右國策ノ變更ニ起因スルニアラスシテ却テ斯ル國策實行ヲ容易ナラシムル趣旨ナルカ如シ尙蘇聯ハ「リ」ニ於テ最モ有力ナル外交首腦者ヲ失ヘ

144

昭和14年5月10日

在英国重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ル譯ナルモ「リ」ハ從來日獨伊排撃ノ爲相當辛辣ナル手腕ヲ振ヘルニ鑑ミ  
此ノ點同人ノ辭職ハ三國ニ取り寧口有利ト考ヘラル(波蘭大使ハ本官ニ對シ「リ」ノ辭職ハ他ニモ理由アルカ如キモ主タル原因ハ蘇側カ現下ノ國際時局ニ於テ成ルヘク多ク「フリー、ハンド」ノ餘地ヲ存センカ爲ト思ハル英國大使ノ如キ新人ハ蘇聯ヲ良ク了解セスシテ交渉シ行キ過キタリト内話シ尙外交團中「ヒットラー」カ最近ノ議會演說ニ於テ蘇聯ニ言及セサリシコトト關聯セシメ「リ」ノ辭職ハ獨ノ對蘇態度ノ變更ニ起因スト見ル向アルニ對シテハ遽ニ信シ難シト語レリ)  
「モロトフ」ノ兼攝ハ一時的ナリヤ不明ナリ(外務部某部長ハ「モ」ハ從來總理トシテ外交ノコトヲ良ク承知シ居リ何等支障ナシト語レリ)「ポチヨムキン」ハ未タ土耳其古ヨリ歸來セス  
英、獨ヘ轉電シ在歐各大使、米ヘ暗送セリ

~~~~~

リトビノフの辭職に關連して英ソ接近の可能性などにつき英国外相と意見交換について

ロンドン 5月10日後発

本省 5月11日前着

第四七八號

八日「ハリファックス」外相以下ヲ招宴ノ際同外相トノ時局談御參考迄

「本使ヨリ過日御話ノ件ハ早速政府ニ電報シ參考ニ供シ置ケリ昨今東京電報トシテ日本政府ノ一般政策ノ傾向及國民ノ感情ニ付キテ親英的ノ報道新聞ニ載セラレ居ル處右ハ頗ル結構ノ事ナルカ何カ「クレギー」ヨリ此ノ間ノ消息アリヤト問ヒタルニ「ハ」外相ハ右ハ寔ニ同感ナリ「ク」ヨリハ唯觀測的報告アルノミニテ眞相ハ詳ニセストノコトナリシニ付本使ハ自分モ何等公電ニ接シ居ル譯ニハ非サルモ恐ラク英蘇交渉ハ重大問題トシテ日本政府ハ其ノ成行ヲ注意シ居ルモノト思ハルト述ヘタルニ「ハ」ハ實ハ「リトヴィノフ」ノ辭職ハ「マイスキー」ノ説明ニ依ルニ何等政策變更ノ意味ニ非ストノコトナルニ依リ過日申上ケタル趣旨ニ依リ交渉ハ續クルコトニシ居レリ

一體「リ」ノ辭職眞相ハ如何ニ考ヘラルルヤ承リタシト問ヘルニ付左ノ通り本使ノ觀測ヲ吐露シ置ケリ

三、「ジユダノフ」等ノ主張スル所謂孤立政策ト「リトヴィノフ」ノ集團保障政策トハ數年間相容レサル二個ノ潮流ヲ作り居タルカ「スターリン」ハ明カニ孤立派ヲ支持シ「リ」ハ次第ニ實力失墜シ幾度カ没落ヲ傳ヘラレタリ其ノ間ノ事情ハ自分カ直接「リ」ト重要問題ニ付テ交渉セシ際ニモ看取セラレタリ今回ノ罷免ハ右行懸リノ清算ト見ルノ外ナシ

「スターリン」ノ孤立政策ト言フモ御承知ノ通り右ハ必スシモ外國トノ交渉ヲ全然排スルトノ趣旨ニハアラス要スルニ主力ヲ國力ノ充實、武力ノ完備ニ置キ共產主義ノ祖國タル蘇聯國土ノ防禦ヲ政策トシ他方黨組織等凡ユル機關ヲ利用シテ宣傳其ノ他ノ方法ヲ用ヒ他國內ノ勞働階級左翼ヲ動員シテ各國內部ヲ動カシ各國ヲシテ蘇聯ノ希望スル政策ヲ採用セシメントスルモノニシテ即チ飽迄共產祖國ヲ中心トスル政策ニシテ蘇聯ノ行動ヲ外國ノ爲ニ束縛スルコトヲ排斥スルモノナリ右ハ幾度カ公然「スターリン」ノ聲明セシ所ニシテ「リ」ノ表面ヨリ外交交渉

ニ依リ進ンテ國際的集團機構ノ組織ヲ計畫スルトハ表裏觀念ニ於テ多大ノ差異アリ今日蘇聯ノ政策ハ何レノ國ニ對シテモ直ニ變更セサルヘキモ恐ラク右ノ事情ハ漸次外交交渉ニ反映スヘシ

三、「ハ」外相ハ實ハ當國ニ於テモ新聞宣傳等相當強ク右カ議會ノ言論ニモ影響ヲ及ホシ困リ居レリト述ヘ又専門家ノ言ニ依レハ蘇兵ハ守備ニハ強キモ外國ノ援助等ニハ餘リ期待出來ストノコトナリ等ト述ヘ居タリ

四、⁽³⁾次ニ「ハ」ハ對蘇問題ニ關係シテ最近獨蘇接近ノ報道アル處如何ニ考ヘラルルヤトノコトナリシニ付左ノ通り私見ヲ述ヘ置ケリ

五、右報道ハ自分ノ經驗ニ依ルモ獨蘇接近ヲ極度ニ恐ルル佛國ヲ牽制スル意味ニ於テ從來度々行ハレタリ特ニ「ミユンヘン」會議直後ニ於テ種々此ノ種ノ風説莫斯科ヲ中心トシテ行ハレタルカ此ノ種風説ハ何レヨリ出テタルカハ別トシ何レモ佛蘇關係ノ冷却ヲ防止シ若シクハ之ヲ積極化セントスル牽制策ナリシコト判明セリ今日英蘇關係ニ付テモ或ハ類似ノコトナキヤ素ヨリ獨逸及蘇聯ニ於テ從來兩國接近ヲ策動スルモノアリタルハ事實ニシテ今日尙

其ノ思想ハ残り居ルモ自分ノ見ル所ニ依レハ獨蘇ハ根本
 的ニ相容レス若シ例ヘハ「ヒットラー」ニシテ蘇聯ト眞
 ニ協同政策ヲ採ルコトアリトセハ其ノ根本主張乃至ハ依
 テ立ツ基礎ヲ失フコトトナルヘク右ハ「ヒ」トシテ不得
 策ナルハ勿論恐クハ不可能ノ事ナルヘシ從テ右ハ單ニ
 「タクテイカルムーヴ」トシテハ有リ得ルコトナルモ根
 本政策ノ問題トシテハ相當困難ナリ

~~~~~

145

昭和14年6月1日 在ソ連邦東郷大使より  
 有田外務大臣宛(電報)

# 最高會議におけるモロトフ演說中の極東關係 部分について

モスクワ 6月1日後發

本省 6月2日前着

第六三〇號

往電第六二八號ニ關シ

演說全文一日各新聞ニ掲載セラレタルニ付極東關係ノ分重  
 複ヲ顧ミス全譯左ノ通り電報ス

茲ニ簡單ニ極東問題竝日本トノ關係ニ付言及スヘシ漁業問

題ニ關スル日本トノ交渉ハ本年ニ於テ最モ重大ナル意義ヲ  
 有セリ御承知ノ通り日本側ハ我沿海洲、「オホーツク」海、  
 「サガレン」及「カムチャツカ」ニ多數ノ漁區ヲ有シ昨年  
 來彼等ノ有セシ漁區ハ三八四ニ上リシカ彼等力是等ノ漁區  
 ヲ取得セシ根據タル條約ノ期限ハ既ニ滿了セリ多數ノ漁區  
 ノ借區期間モ亦滿了セリ依テ蘇政府ハ漁業問題ニ關シ日本  
 ト交渉ニ入りタルモノナルカ我方ヨリハ借區期間ノ滿了セ  
 ル一定數ノ漁區ハ軍略的考量ヨリ今後日本人ニ提供スルコ  
 ト能ハサル旨聲明セリ我方ノ立場ニハ明瞭ナル理由アルニ  
 拘ハラス日本側ハ之ニ對シ大イニ反對セリ長キ交渉ノ結果  
 三十七漁區ハ日本人ノ手ヨリ除外サレ他ノ場所ニ於テ新ニ  
 十漁區ヲ彼等ニ讓渡セリ然ル後條約ノ效力ハ更ニ一箇年延  
 長セラレタリ漁業問題ニ關スル日本トノ協定ハ大ナル政治  
 的意義ヲ有ス殊ニ日本ノ反動的方面ハ本問題ノ政治的反面  
 ヲ強調シ威嚇サヘ用ヒタル次第ナリ乍併日本ノ反動分子ハ  
 蘇聯邦ニ對シテハ威嚇ヲ以テ目的ヲ達シ得サルコト及(大  
 拍手)蘇國家ノ權利ハ確乎擁護セラレ居ルコトヲ更ニ會得  
 シタルナルヘシ(大拍手)

次ニ國境問題ナルカ蘇政府ハ蘇聯國境ニ於ケル日滿軍ノ如

何ナル挑發モ不問ニ付スルモノニアラサルコトヲ相手國ハ理解シテ可ナルヘキカ外蒙國境ニ付テモ之ト同一ノコトヲ指摘スル要アリ吾人ハ現行相互援助條約ニ依リ外蒙ニ對シ其ノ國境防衛上必要ナル援助ヲ與フルコトカ吾人ノ義務ナリ蘇政府力調印セル相互援助條約ハ吾人之ヲ重大視ス余ハ茲ニ吾人ハ右條約ニ基キ外蒙國境ヲ自國國境ト同様斷乎防衛スヘキコトヲ警告セントスルモノナリ(大拍手)日本カ外蒙政府ニ對シ對日侵略ヲ云々スルハ滑稽ニシテ一顧ノ價值ナク又忍耐ニモ限度アルコトヲ理解スヘキナリ(拍手)從テ日滿軍隊カ頻繁ニ行ヒ居ル蘇聯及外蒙國境ノ挑發的侵犯ハ速ニ止ムルヲ可トス吾人ハ在莫日本大使ヲ通シ既ニ必要ナル警告ヲ爲セルモ蘇聯ノ對支關係ニ付テハ言及スル要ナカルヘシ蓋シ諸君ハ侵略ノ犠牲トナリ祖國ノ獨立ノ爲鬭爭シツツアル民族ヲ支持スルコトニ關スル「スターリン」ノ言ヲ熟知ノ筈ナレハナリ右「ス」ノ言ハ完全ニ支那及其ノ民族獨立鬭爭ニ適用セラルヘク吾人ハ終始一貫右政策ヲ實行シツツアルカ同政策ハ歐洲ニ於テ吾人ノ前ニ横ハル使命即チ平和愛好國ニ依リ侵略防止ノ單一平和戰線結成ノ使命ト合致ス(滿場拍手)

146

昭和14年7月11日

在ソ連邦東郷大使より  
有田外務大臣宛(電報)

### ソ連を取り巻く國際情勢および日ソ關係について の觀測報告

モスクワ 7月11日前發

本省 7月11日後着

#### 第七九一號(極秘)

當地<sup>(1)</sup>各方面ノ情報ヲ綜合スルニ最近蘇聯邦ノ國際情勢大要左ノ通り

一、英佛蘇ノ莫斯科會談ニ付テハ屢次電報ノ通りナルカ去ル三日ノ蘇側回答ハ「バルチック」諸國ノ保障ニ付未タ意見ノ一致ヲミサルノミナラス蘇聯ハ英佛ノ提議セル和蘭、瑞西ノ保障ニ異存ヲ有シ侵略ノ意義ニ付テモ難題ヲ持出し且又軍事協定即時交渉ノ提議ヲモ爲シタルモノノ如ク爾後八、九日ニ亘リ會談セルモ議論猶熟セサルモノノ如ク前途ノ見透シ判明セサルモノアルモ在當地英佛交渉當事者ハ依然交渉促進ニ苦心シ居リ尙在當地英國大使ハ漸次蘇側ノ態度ニ不平ヲ竝ヘ最近モ蘇ノ要求ヲ其ノ儘應諾スルヲ得ス交渉ハ遅々タリト述ヘタリ英ハ波蘭及羅馬尼ニ

對シ急遽保障ヲ與ヘ然ル後ニ蘇聯ニ對シ軍事援助ヲ求ムルノ已ムナキ情勢ニ立到リタル關係上蘇聯ハ交渉上有利ノ地歩ニ立ツコトナリ旁々屢次電報ノ通り蘇力其ノ主張ヲ固守シ英佛側ニ於テ讓歩ヲ重ネ來リタル次第ナルカ由來蘇聯ハ過般「スターリン」「モロトフ」ノ演說ニモ言ヘル如ク資本主義諸國間ノ戰爭ニ付火中ノ栗ヲ拾フノ危險ヲ極力避ケントスルノミカ英佛殊ニ英ニ對スル懸念ヲ去ラス

又英側ハ本件協定ノ主要目的ハ蘇聯ヲモ誘ヒ以テ成ルヘク平和裡ニ獨ノ進出ヲ抑壓スル手段ニ供セントスル意嚮ナルカ如キモ蘇側ニテハ現實的考察ノ下ニ本件協定ノ成立ハ結局獨トノ武力衝突ノ可能性ヲ増大スルモノナリトノ觀方ヲ有シ確乎タル成算ナクシテ之ヲ締結スルコトハ却テ自國カ窮極ニ陥ルヘキヲ惧レ他方今少シク「ダンチツヒ」問題等ノ推移ヲモ見送ラントスルノ念意モアル模様ナル處本件協定ヲ締結スル場合ニハ蘇側ニ取り極メテ有利ナルモノ即チ對獨戰爭ノ起因及時機迄モ對獨「グループ」ニ關スル限り決定シ得ルカ如キモノニナシタキ底意アリト認メラル

尚本件ト極東問題ノ關係ニ付テハ累次電報セル次第ナルカ依然當地ニ於テモ各種ノ臆測アル處土發大臣宛電報第一九四號ノ次第モアリタルニ依リ在當地土耳古大使(最近急遽離任セリ)ニ會談ノ際夫レトナク尋ネタル處同人ハ蘇側カ本件協定ヲ極東ニ延長セントスル希望ニ付テハ何等聞キタルコトナキノミナラス蘇聯ハ「タス」ヲ以テ明瞭ニ打消シタル次第ナルニ依リスルコトハアリ得スト思考スル旨語り居タリ

三、<sup>(3)</sup>蘇ノ對獨態度ハ前記ノ通りナル處獨モ又英、佛、蘇間ニ自國包圍陣ノ結成セラルルヲ阻害セントスルノ意嚮強ク近來益々蘇ヲ刺戟スルカ如キ言動ヲ差控ヘ民主主義國ニ對スル非謗ヲ盛ニシ乍ラ防共ニ付キテハ議論ヲ加ヘサル態度ハ五月末「モロトフ」演說中ニモ指摘セル所ナリ蘇側ニ於テハ獨ハ「ウクライナ」ニ對スル野心ヲ斷念セリト迄ハ考ヘ居ラサルモ相當期間ニ於テハ右ノ行動ニ出テサルヘキヲ豫想シ對獨關係ノ紛糾ヲ避ケントスルノ念強ク獨ヲ刺戟セサル様努力スル情況著シキモノ有リ但獨蘇通商交渉問題ニ付獨側ヨリノ聞込ニ依レハ右ハ今尙進展ヲ見ルニ至ラス蓋シ昨年末ニ於テハ蘇側ノ希望ス

ル機械類及特殊鋼等ノ註文ハ獨生産力ノ關係上充分之ニ應シ得サリシモ「チエツコ」保護領化以來其ノ準備及「ストツク」ヲ收得シスル註文ニ應シ得ルニ至レル處蘇側ニ依リテ其ノ代償トシテ獨ノ希望スル物資即木材、滿俺、石油等ニ於テ充分ナル供給ヲナシ得ス爲ニ支拂問題ノ解決ニ付著シク困難ナルコト本件交渉ノ最大難關ヲナスモノノ如ク双方ノ間ニ希望ト色氣ヲ見セツツ未タ具體的折衝ニ入ラサル模様ナリ

三<sup>(4)</sup>

日蘇關係ニ付最近「ノモンハン」事件ハ當地外交團ノ興味ノ一中心トナリ同事件發生ノ原因及日蘇間ニ交渉ヲ重ネサル理由等ニ付各方面ヨリノ質問アリ右ニ付テハ適當説明シ居ル次第ナル處蘇聯ハ前記ノ通り英佛ヨリハ盛ニ關心ヲ寄セラレ獨ニ付テハ少クトモ當分ハ「ウクライナ」ニ野心ナキコトヲ察知シ何レノ途歐洲ニ於ケル其ノ地位ハ有利トナルヘキ情勢ニアリト信シ列強中最モ蘇聯ニ對シ積極的行動ニ出ツル可能性アリト認メツツアル日本ニ對シテハ旗幟ヲ明カニシ從來ヨリモ更ニ強硬ニ出テ得ル情勢ニアリト考ヘ居ルモノノ如シ殊ニ「モロトフ」外務人民委員就任後ハ蘇聯ノ國際的地歩ヲ確保セントスルノ

念強ク從テ英佛蘇會談「オーランド」問題其ノ他各國トノ案件ニ付強硬ナル態度ヲ發揮シ來レリトハ在當地各國大公使ノ等シク稱フル所ナリ但シ蘇聯ト雖モ國內ニ於ケル諸種弱點ヲ意識シ居ル外各種建設ノ增強ヲ欲スル關係上又日本ト戰爭スル場合ニハ或ハ西方ヨリノ進出ヲ惹起スル可能性アルヘキヲ考慮シ自ラ我方ト戰爭ヲ惹起スルコトハ今尙之ヲ避ケントスルモノノ如ク從テ蘇聯トシテハ從來通り日本ヲシテ益々支那事變ニ深入リセシメ其ノ國力ヲ弱ムルノ方針ニ出ツルト共ニ既ニ日本カ事變ニ依リ國力ノ消耗著シキモノアリト考ヘ居ル模様明カナルカ故ニ國境事件ハ素ヨリ日蘇間各事件ノ處理ニ付テハ益々強硬ナル態度ニ出テ來ルヘキ可能性大ナリ

在歐米各大使へ轉電セリ



147

昭和14年9月9日

在独国大島大使より  
阿部外務大臣宛(電報)

日ソ国交改善を希望するとの駐独ソ連大使発言について

第九六五號

ベルリン 9月9日後発  
本省 9月10日前着

八日午前新任蘇聯駐獨大使「シユクワルツエフ」着任挨拶  
ノ爲本使ヲ來訪シタル際同大使ハ蘇聯トシテハ現在ノ世界  
情勢ニ鑑ミ日蘇國交ノ改善ヲ希望シ居ル旨述ヘタルヲ以テ  
本使ハ日本トシテハ固ヨリ善隣ノ關係ヲ惡化スル意思ナク  
蘇聯カ希望スルニ於テハ右ハ不可能ニアラスト考フル旨答  
ヘ置キタリ

~~~~~

148

昭和14年10月25日 在独国大島大使より
野村(吉三郎)外務大臣宛(電報)

日ソ國交調整は望ましく日本側より日ソ接近
のジェスチャーを示すならば好都合との駐独
ソ連大使の発言について

ベルリン 10月25日後発
本省 10月26日夜着

第二二一七號

過日駐獨蘇聯邦大使「シユクワルツエフ」新任挨拶ノ爲來

訪シ日蘇親善ニ關スル強キ希望ヲ述ヘ居リシカ其ノ後「リ」
外相ト同行シテ莫斯科ニ赴キ兩三日前歸任セルヲ以テ二十
三日往訪セル處彼ハ本使ニ對シ「ノモンハン」事件解決ニ
關スル印象ヲ問ヒタル後彼力歸莫中屢々蘇聯軍首脳部ト談
話セリト前置シ日蘇國交ノ全般的調整ハ望マシク之ニ關シ
日本側ヨリ日蘇接近ノ「ゼスチュア」ヲ示サルレハ好都合
ナリト述ヘタルニ付本使ヨリ斯ル問題ハ相互ノ信賴回復カ
前提條件トナルヘキモノニシテ蘇聯邦カ日本ノ東亞新秩序
建設ヲ目標トスル對支政策ヲ正當ニ理解スルノ誠意ヲ示サ
ハ日蘇國交ノ調整ニ益スル所大ナルヘシト述ヘタル處「シ
ユクワルツエフ」ハ右ハ興味アル問題ナルニ付自分モ充分
研究スヘシト述ヘ居リタリ

尙其ノ際同大使ハ日蘇兩國通商關係ノ増進ヲ希望スル旨ヲ
述ヘ又獨蘇通商關係ニ關シ獨逸通商交渉代表「リッター」
一行ハ蘇聯邦側ト順調ナル交渉ヲ遂ケ歸獨スルコトナリ
蘇側ヨリモ近ク大人數ノ經濟委員來獨シ各種經濟問題ニ關
シ具體的商議ヲ爲ス豫定ナリト述ヘ居リタリ

蘇ヘ轉電セリ

~~~~~

昭和15年7月13日

在ソ連邦東郷大使より  
有田外務大臣宛(電報)

## 政府の使命を有せざる者とは面会を拒絶する

## とのソ連要人の対外態度などにつき報告

モスクワ 7月13日前発

本省 7月13日後着

## 第九三七號

「<sup>(1)</sup>客秋「スメターニン」ノ新任以來在本邦蘇聯公館「スタツフ」ノ増加急激ナルコトハ相當注意ノ要アルヘシト思考セラルルニ付テハ差當リ主要第三國ニ於ケル蘇聯公館員竝ニ其ノ増加率ニ付取調ヘ見ルコト可然キカト存セラ

ル  
ニ、歐洲戰局ノ進展ニ伴ヒ我方ノ通過査證請求者ハ益々増加シ來リタル處從來滞在附査證ヲ要求セルモノアリタル爲單純通過査證ノ許可迄甚タシク遲延シ又其ノ間督促ヲ爲ス關係上却テ先方ニ利用セラレ單ニ本人ノミナラス全般ノ通過査證取附ニモ不利ナル影響アリタルニ付今後ハ絶對ノ必要無キ限り滞在附査證ヲ要求セサル様注意方必要ト存ス

三、<sup>(2)</sup>

又今後本邦人中蘇側要人トノ會見ヲ希望スルモノモ生スヘキ處當地ニ於ケル最近ノ實例ニ依レハ「スターリン」トノ會見ノ如キ全然不可能ナルノミナラス「モロトフ」モ政府ヨリノ重要任務ヲ帶ヒサル者トハ會見セス現ニ過般鮎川滿業總裁ハ在獨蘇聯大使ト「スターリン」會見ニ付充分打合せ置キタリトノコトナリシモ當地外務部ヨリ「スターリン」ハ一般ニ何人ニモ面會セサルニ依リ政府ノ特別使命ヲ帶ヒ居ラサル限り面會出來サル旨ノ回答アリ又「モロトフ」モ政府ノ使命ヲ有セサル者トハ面會セサル旨ヲ以テ拒絕シ來レルコトアリ又新聞記者ニシテ「モ」ヨリ會見ヲ拒絕セラレタル例鮮カラス尙又「クリツプス」ノ如キハ特ニ英國政府ヨリ特使トシテ派遣ノ旨通告セルニ對シ蘇側ニテハ普通ノ全權大使以外ノ資格ニ於テハ引見セサル旨ヲ以テ謝絶セル譯合ニテ今後蘇側ニ於テ自己ニ都合良キ場合ノ除外例アルヤモ知レサルカ前記ノ如キ蘇聯要人トノ會見ハ殆ト不可能ナルニ付關係方面ニ於テ此ノ種希望ヲ抱カシメサル様御取計ヲ希望ス

150

昭和十五年八月二日

在ソ連邦東郷大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

# 最高會議におけるモロトフの外交演説について

## 別電

昭和十五年八月二日發在ソ連邦東郷大使より

松岡外務大臣宛第一〇六一号

右演説中の対日關係部分について

モスクワ 八月二日後發

本省 八月二日夜着

第一〇六〇號

往電第一〇五九號ニ關シ

一日午後七時「モロトフ」ハ最高會議合同會議ニ於テ要旨

左ノ如キ外交演説ヲ爲シタリ

第六回最高會議以來四箇月間ニ獨ノ優勢ナル攻撃ハ終ニ佛

ヲモ屈服セシメタルカ未タ眞ニ和平成ルニ至ラス英ハ米ノ

援助ヲ頼ミテ獨ノ和平提議ヲ退ケタルヲ以テ戰亂ハ益々擴

大ノ惧アリ佛ハ戰備ノ不足ト蘇聯ニ對スル認識ノ不足等ニ

依リ脆クモ破レタリ獨蘇關係ハ益々強固トナリ英佛ノ離間

策モ效ナシ蓋シ兩者ノ友好關係ハ偶然ノ事情ニ依ルモノニ

アラスシテ双方ノ利害ニ依リテ結ハレ居レリ又伊トノ關係

モ改善セラレ通商關係發達ノ可能性アリ蘇英關係ハ改善セラルルニ至ラス「ベツサラビヤ」及「バルト」三國ノ合併ハ之等諸地方ノ經濟、文化及安全ヲ強化スルト同時ニ蘇聯ヲ益々強大ナラシム芬蘭トノ關係ハ大體圓滿ニテ芬ハ「オーランド」ノ防備撤廢、蘇聯領事館(複數)ノ開設ニ應シタリ又諾威、瑞典、「ユーゴ」及希臘トノ關係モ正常ニ進ミ居レリ土耳其古及依蘭トノ間ニハ別段ノ變化ナキモ之ヲ通シテ外國ノ飛行機「バクー」及「バツーム」ヲ偵察シタル事例ニ鑑ミ南部國境ニ對シテモ監視ヲ嚴ニスル要アリ(茲ニテ別電第一〇六一號日蘇關係ニ觸レタリ)米國トノ關係ハ良好ナラス殊ニ「バルト」三國ヨリ蘇聯國立銀行ノ購入セル金ヲ米國側ニテ抑留セル事件ニ付テハ嚴重抗議中ナリ支那トノ間ニハ不侵略條約ヨリ生ル友好關係アリ尙佛、白、蘭等ノ殲滅ノ結果植民地分割問題尖鋭化シ日本ノ外米ノ帝國主義モ觸手ヲ動カシ居レリ斯クテ歐洲戰爭ハ世界動亂ニ擴大スル兆候アル處蘇聯ハ益々國防ヲ強化シ動員體制ヲ以テ之ニ處シ總ユル事態ニ備フルコトヲ要ス

## (別電)

モスクワ 8月2日後発  
本省 8月2日夜着

第一〇六一號

日蘇關係ハ最近若干正常化セリ殊ニ六月九日滿蒙紛爭地國  
境確定成立セルカ本問題ハ解決延引シ日蘇及滿蒙間ノ國交  
調整ノ障礙ヲ爲シ居タルニモ鑑ミ特ニ意義アリ而シテ滿蒙  
委員會ハ近日中ニ現地作業ヲ開始スルコトナレリ一般ニ  
日本政界ニハ蘇聯トノ國交改善ヲ望ム傾向認メラルル處右  
ハ利益ノ相互認識ト無意味ナル障礙ヲ除去スルコトニ依リ  
達成スルコトヲ得ヘシ日本新政府ノ政綱即チ新政治體制中  
ニハ尙不明瞭ナル點多々アリ南進政策ノ如キ新聞ニ喧傳セ  
ラレ居リ政界モ亦歐洲ノ動キニ鑑ミ南進ニ傾キ居ルモノノ  
如キカ之ニ付テモ不明ノ點アルコト尙其ノ蘇聯ニ對スル態  
度ニ同シ

